

元総社蒼海遺跡群(136)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2020.3

前橋市教育委員会

元総社蒼海遺跡群(136)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 2 0 . 3

前橋市教育委員会



元總社蒼海遺跡群（136）遠景（南西から）



A区 B-1号建物跡全景（西から）



A区 基壇状遺構全景（西から）



A区 基壇状遺構断面（南から）

はじめに

前橋市は、関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる群馬県の県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、2万年前から人々が生活を始め、市内のいたる所にその息吹を感じられる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において前橋台地には、広大に分布する穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ、王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは元総社・元総社地区に山王廃寺、国府、国分僧寺、国分尼寺など上野国の中核をなす施設が次々に造されました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎧をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた肥橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地となり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する元総社蒼海遺跡群（136）は古代上野国の中核地域の調査であり、上野国府推定地域にも近接することから、調査成果に多くの注目を集めています。発掘調査の結果、上野国府が存在した時期に建てられたと考えられる、規模の大きな建物跡が確認されました。これまで近接した地点の調査で、類似する建物跡も見つかっておりますが、今回新たに3棟が検出されたことは、これまでの成果と合わせて考えられる大きな手掛かりです。この建物が上野国府に深く関係するものなのかどうかは、今後の研究に委ねるところもありますが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。残念ながら、現状のまでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められることができました。また、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

令和2年3月

前橋市教育委員会
教育長 塩崎政江

例　　言

1 本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（136）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2 発掘調査の要項は次の通りである。

| | |
|---|-----------------------------------|
| 遺跡名 | 元総社蒼海遺跡群（136） |
| 調査場所 | 前橋市元総社町 2122-2、2124、2126-1、2126-2 |
| 遺跡コード | IA 245 |
| 監理指導 | 並木史一（前橋市教育委員会） |
| 発掘・整理担当者 | 山田誠司（技研コンサル株式会社） |
| 発掘調査期間 | 令和元年 10月 15日～令和元年 11月 29日 |
| 整理・報告書作成期間 | 令和元年 12月 1日～令和2年 3月 27日 |
| 3 本書の編集は山田が行い、原稿執筆は I を並木、他を山田が担当した。 | |
| 5 発掘調査および整理作業参加者は次の通りである。 | |
| 大川明子　茂木佑輔（技研コンサル株式会社） | |
| 新井　實　上沢公一　宇賀神光　小田切幹緒　河本ちと　北爪二郎　小林　和　杉田友香　曾根　裕 | |
| 曾根良美　高橋一巳　多田ひさ子　中嶋知恵子　西湯　登　星野　博　細野竹美 | |
| 6 本書における図面、写真、遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。 | |
| 7 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。 | |
| 山下工業株式会社 | |

凡　　例

1 押図中に使用した北は座標北である。

2 押図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3 遺構名称は、堅穴住居跡：H、建物跡：B、溝跡：W、井戸：I、土坑：D、ピット：P である。

その他、各図面を参照のこと。

4 遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次の通りである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　住居跡・建物跡・溝跡・井戸・土坑・ピットほか・・・1/30、1/60

全体図・・・1/150

遺物　土器・陶磁器・・・1/3、1/4　鉄・銅・石製品・・・1/1、1/6　古銭・・・1/1

5 本文および表中の計測値については（ ）は現存値を、〔 〕は復元値を表す。

6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構　硬化面：■

遺物　須恵器（還元焰）：■　施釉：■

7 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間 B 軽石：1108）、Hr-FP（榛名ニッ岳伊香保テフラ：6世紀中葉）、

Hr-FA（榛名ニッ岳渋川テフラ：6世紀初頭）、As-C（浅間 C 軽石：3世紀後葉～4世紀前半）

目 次

| | |
|----------------|----|
| 卷頭図版1 | |
| 卷頭図版2 | |
| はじめに | |
| 例言・凡例 | |
| I 調査に至る経緯 | 1 |
| II 遺跡の位置と環境 | 2 |
| III 調査の方針と経過 | |
| 1 調査範囲と基本方針 | 8 |
| 2 調査経過 | 8 |
| IV 基本層序 | 8 |
| V 遺構と遺物 | |
| 1 A区 | |
| (1) 堪穴住居跡 | 9 |
| (2) 建物跡 | 10 |
| (3) 溝跡 | 11 |
| (4) 井戸跡 | 12 |
| (5) 焼土跡・土坑・ピット | 12 |
| 2 B区 | |
| (1) 土坑・ピット | 29 |
| VI まとめ | 31 |

挿図目次

| | |
|--------------------------------|----|
| Fig. 1 遺跡の位置 | 1 |
| Fig. 2 前橋の地形 | 2 |
| Fig. 3 周辺遺跡図 | 3 |
| Fig. 4 周辺調査地点とグリッド設定図 | 7 |
| Fig. 5 基本層序 | 8 |
| Fig. 6 A区 全体図 | 13 |
| Fig. 7 A区 基壇下遺構全図、H-1号住居跡 | 14 |
| Fig. 8 A区 H-1号住居跡カマド、H-2・3号住居跡 | 15 |
| Fig. 9 A区 H-4・5号住居跡、D-15号土坑 | 16 |
| Fig. 10 A区 H-6・7・8号住居跡、D-19号土坑 | 17 |
| Fig. 11 A区 基壇状遺構(1) | 18 |
| Fig. 12 A区 基壇状遺構(2) | 19 |
| Fig. 13 A区 B-1号建物跡(1) | 20 |
| Fig. 14 A区 B-1号建物跡(2) | 21 |
| Fig. 15 A区 B-2号建物跡 | 22 |
| Fig. 16 A区 W-1号溝跡 | 23 |
| Fig. 17 A区 I-1号井戸跡、1号焼土跡、土坑(1) | 24 |
| Fig. 18 A区 土坑(2)、ピット | 25 |

| | |
|--------------------------------|----|
| Fig.19 A区 出土遺物（1） | 26 |
| Fig.20 A区 出土遺物（2） | 27 |
| Fig.21 B区 土坑・ピット | 29 |
| Fig.22 B区 全体図 | 30 |
| Fig.23 元總社蒼海遺跡群（136）周辺の地割と関連遺構 | 31 |

表目次

| | |
|-----------------------|----|
| Tab.1 周辺遺跡一覧表 | 4 |
| Tab.2 A区焼土跡・土坑・ピット計測表 | 12 |
| Tab.3 A区出土遺物観察表 | 27 |
| Tab.4 B区土坑・ピット計測表 | 29 |

写真図版目次

| | |
|---|---|
| PL. 1 元總社蒼海遺跡群（136）全景（上が西） A区 全景（上が北） | PL. 3 A区 基壇状遺構全景（北西から） A区 B-1号建物跡全景（北西から） |
| PL. 2 A区 H-1号住居跡全景（西から） A区 H-2号住居跡全景（南から） A区 H-2号住居跡カマド全景（西から） A区 H-3号住居跡全景（西から） A区 H-4・5号住居跡全景（西から） A区 H-5号住居跡カマド全景（西から） A区 H-6・7・8号住居跡全景（南から） A区 基壇状遺構土層断面（南西から） | A区 B-1号建物跡土層断面（西から） A区 B-2号建物跡全景（南東から） A区 W-1号溝跡全景（西から） PL. 4 B区 全景（上が北） A区 基本層序（東から） B区 基本層序（東から） 出土遺物 PL. 5 出土遺物 |

参考文献

- 太田市教育委員会 2014 「北関東における郡衙の正倉 予稿集」
 条里制・古代都市研究会 2015 「古代の都市と条里」 吉川弘文館
 奈良文化財研究所 2003 「古代の官衙遺跡 Ⅰ 遺構編」
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 1986 「寺田遺跡」（大津）
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2007 「元總社蒼海遺跡群（9・10）」
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2008 「元總社蒼海遺跡群（14・19）」
 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 「元總社蒼海遺跡群（21）」
 前橋市教育委員会 2011 「元總社蒼海遺跡群（35）」
 前橋市教育委員会 2014 「元總社蒼海遺跡群（57）・（58）・（59）」
 前橋市教育委員会 2015 「元總社蒼海遺跡群（85）・（88）～（90）・（96）～（98）」
 前橋市教育委員会 2015 「元總社蒼海遺跡群（91）・（95）・（102）」
 前橋市教育委員会 2016 「元總社蒼海遺跡群（99）」
 前橋市教育委員会 2016 「推定上野国府 平成26年度調査報告」
 前橋市教育委員会 2017 「推定上野国府 平成27年度調査報告」
 前橋市教育委員会 2019 「元總社蒼海遺跡群（116）・（123）」

I 調査に至る経緯

本発掘調査は、前橋都市計画事業元総社蒼海地区画整理事業に伴い実施され、21年目にあたる。本調査地は、周辺で埋蔵文化財調査が長年にわたって行われていることから、遺跡地であることが確認されている。

令和元年8月15日付で前橋市長・山本 龍（区画整理課）（以下「前橋市」という。）より、埋蔵文化財発掘調査・整理業務に係る依頼が、前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に他の発掘調査を実施中のため、市教委直営による調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務を委託することで合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することになった。同年10月11日付で前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手した。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群（136）」（遺跡コード：1A245）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、「（136）」は過年度に実施した発掘調査と区別するために付したものである。

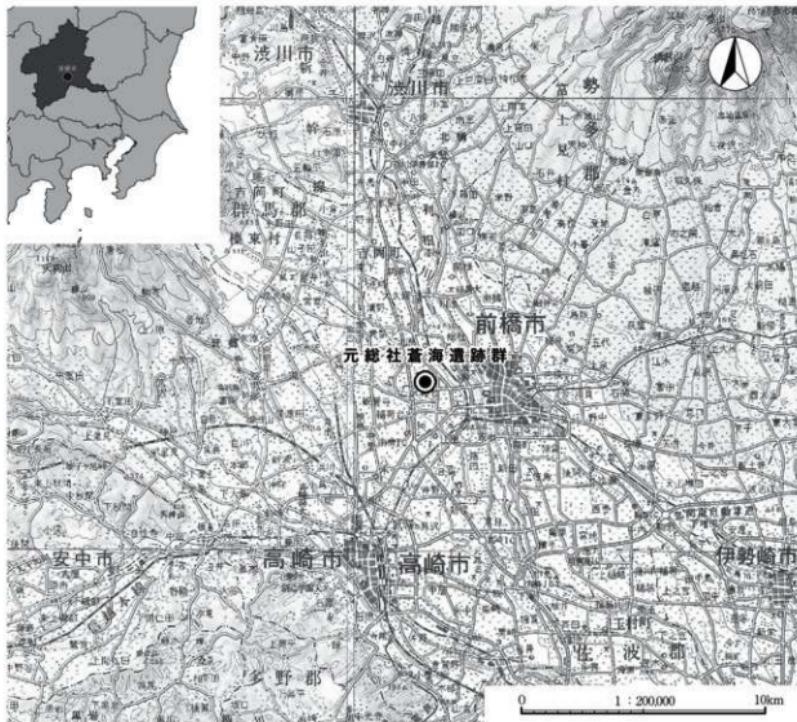


Fig.1 遺跡の位置

II 遺跡の位置と環境

地理的環境 (Fig. 1) 元総社蒼海遺跡群 (136) は、前橋市街地から利根川を隔て西へ約 3.6km の地点、前橋市元総社町地内に所在する。遺跡地の西側には関越自動車道が南北に、南側には国道 17 号、主要地方道の県道足門・前橋線、前橋・安中・富岡線が東西に、また東側には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。

遺跡は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地端部と前橋台地との移行地帯に立地する。遺跡周辺には、相馬ヶ原扇状地の伏流水を水源とする牛池川、染谷川が流れている。これらの河川の開析作用によって細長い微高地と低地が多く形成されており、その比高差は 3~5m を測る。遺跡が立地する周辺は主に畑地として利用されていたが、前橋市中心部から続く市街地の西端にあたり、近年では元総社蒼海地区画整理事業の進展によって宅地や商業施設が立ち並び、市街地化が拡大している。

歴史的環境 (Fig. 3 · Tab. 1) 本遺跡が所在する元総社地域は、上野府国推定地や上野国分寺・国分尼寺を中心に連続と遺跡が広がる地域であり、関越自動車道建設や区画整理事業などに伴う発掘調査が行われ、多くの遺構が確認されている。本遺跡周辺地域での時代毎の遺跡の概要是以下の通りである。

(1) 繩文時代 八幡川右岸の微高地に上野国分寺跡 [15]、産業道路東 [15]、産業道路西 [16]、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分寺跡・尼寺中間地域 [22]、元総社小見三遺跡 [59]、元総社蒼海遺跡群 (24) などが挙げられ、竪穴住居跡が確認されている。本遺跡でも縄文時代前期から中期にかけての遺構を確認している。

(2) 弥生時代 日高遺跡 [18] [19]、上野国分寺跡・尼寺中間地域 [22]、正觀寺遺跡 [21] などがあるが、その分布は散在的である。この内、日高遺跡では浅間 C 軽石下の水田跡が確認されており、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて継続して営まれた水田と捉えられている。

(3) 古墳時代 本遺跡周辺は県内でも有数の古墳密集地域であり、それを代表するものとして總社古墳群が挙げられる。古墳時代後期・終末期に亘り、王山古墳 [7]、總社二子山古墳 [12]、愛宕山古墳 [10]、宝塔山古墳 [13]、蛇穴山古墳 [8] などの首長墓が多数築造された。また、この時期には山王庵寺 [4] が建立され、總社古墳群を含め、政治的中枢地域となる。

山王庵寺は昭和 3 年に日枝神社境内が「山王塔址」として国指定史跡となり、その後昭和 49~56 年にかけて 7 次にわたる本格的な発掘調査が行われた。この調査で金堂の検出および「放光寺」梵書の平瓦出土により山王庵寺が「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されるようになった。平成 9~11 年の調査でも土坑から大量の塑像が出土し、平成 18~19 年度調査では北・東・西面、平成 20 年度調査では南面の回廊を検出している。さらに平成 21 年度調査では「推定中門」と「西側南側回廊」の周辺部が、平成 22 年度調査では北西隅の回廊と接するように「基壇建物跡」と「北方建物群」が確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鷲尾、根巻石等の石造物群は宝塔山古墳の石棺や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術に



Fig.2 前橋の地形

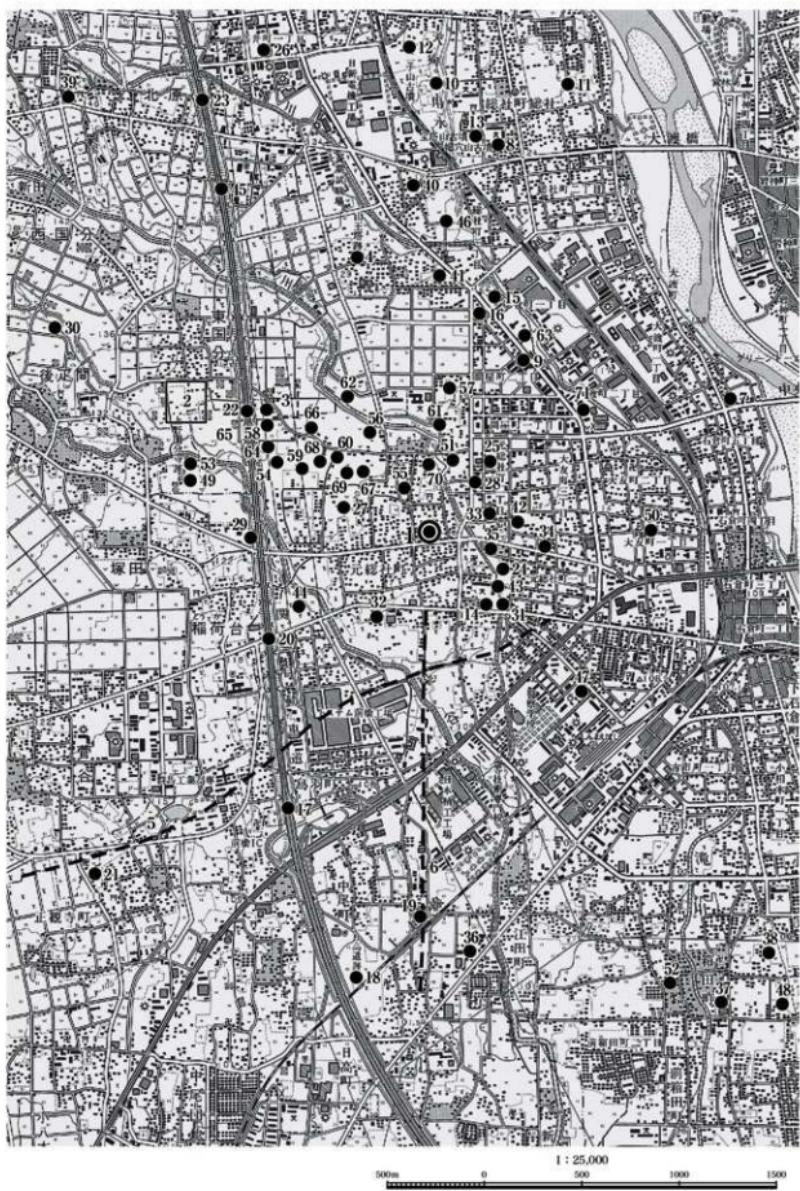


Fig.3 周辺遺跡図

よるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。

この時代の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開しているが、前期～中期の集落は散見される程度で、後期からの集落増加が看取できる。生産域としては、牛池川左岸一帯に広がる低地平野において、元総社明神遺跡、元総社北川遺跡、總社閑泉明神北^{IV}、V 遺跡など水田跡が確認されている。

(4) 奈良・平安時代 奈良時代には上野国府が造営され、上野国分寺〔2〕・国分尼寺〔3〕の建立に示されるように、本遺跡周辺は古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。

上野国府は本遺跡付近の区域に約 900m 四方に推定され、関連遺跡として元総社小学校校庭遺跡〔14〕では県下最大級の掘立柱建物跡が検出され、元総社蒼海遺跡群（99）、上野国府等範囲内確認調査 28・33・34 トレンチでは掘込地業を持つ建物跡が、元総社蒼海遺跡群（95）では方形の柱穴掘り方をもつ大型掘立柱建物跡が確認されている。元総社寺田遺跡〔43〕では「國府」・「曹司」・「國」・「邑尉」などの墨書き土器や人形^{リリカ}が出土している。元総社明神遺跡〔24〕では南北方向の溝跡、閑泉橈遺跡〔25〕や元総社蒼海遺跡群（7）・（9）・（10）では東西方向の溝跡が確認され、国府城の外郭線の想定が為されている。また、周辺遺跡からは円面鏡や綠釉陶器、巡方（腰帶具）なども出土しており、国府を考える上で貴重な資料となっている。

国分僧寺は大正 15 年に国指定史跡となり、昭和 40 年代から部分的な発掘調査が進められるようになった。昭和 55 年以降には本格的な調査が始まり、主要伽藍の礎石・塗垣・堀等が確認されている。また、平成 24 年度から 28 年度にかけての第 2 期発掘調査において、これまでの金堂が講堂であったことが判明する等、伽藍配置の変更が行われている。国分尼寺は昭和 44・45 年のトレンチ調査により伽藍配置が推定され、その後平成 12 年度に前橋市埋蔵文化財発掘調査團により南東での寺域確認調査が行われた。調査の結果、南東・南西隅の塗垣と、それに平行する溝跡や道路状遺構等が確認されている。また、高崎市教育委員会による平成 28 年度の調査で講堂跡が尼坊跡であったことが判明し、平成 29 年度の調査では回廊跡の一部が確認されている。関連遺跡としては鳥羽遺跡〔20〕で神社遺構と工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域〔22〕では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。また、近郊には N・64°・E 方向に東山道（国府ルート）が、日高遺跡〔19〕では幅約 4.5m の推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。

当該期の一般的な集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府城と居住域の区分けが看取できる。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（40）で 8 世紀後半の住居跡内の一角に鍛冶遺構が検出されている。元総社蒼海遺跡群（41）では 9 世紀後半の鍛冶工房が検出され、同遺跡からは金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。また、元総社蒼海遺跡群（64）では 8 世紀前半には廃絶されたと考えられる製鉄炉跡（箱型炉）が 1 基、元総社稻葉遺跡〔47〕では 10 世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が 2 基確認されている。

(5) 中世 室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡が多く検出されており、12～15 世紀の青白磁梅瓶、青磁酒会壺、袴腰香炉などの貿易陶磁が多数出土している。天正年間以降は源氏・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、慶長 6 年（1601 年）に秋元長朝が總社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道遺跡〔71〕の貨幣理納遺構から 572 枚におよぶ銭貨が捲紐を通した「縛」の状態で六縄出土している。

Tab.1 周辺遺跡一覧表

| 番号 | 遺跡名 | 番号 | 遺跡名 | 番号 | 遺跡名 | 番号 | 遺跡名 |
|----|---------------|----|-----------|----|--------------|----|---------------|
| 1 | 元総社蒼海遺跡群（196） | 11 | 曳出山跡 | 21 | 正岡今造跡 I - Ⅲ | 31 | 今井作跡 |
| 2 | 上野国分寺跡 | 12 | 堀松二山古墳 | 22 | 上野国分寺跡・尼寺中間地 | 32 | 大沢作跡 |
| 3 | 上野国分尼寺跡 | 13 | 安原山跡 | 23 | 正見作跡 | 33 | 別動作跡 |
| 4 | 山川塙跡 | 14 | 火薙村小学校前遺跡 | 24 | 鶴見明神遺跡 I - Ⅲ | 34 | 早瀬作跡 |
| 5 | 朝日塙（廃定） | 15 | 東武志山根遺跡 | 25 | 閑泉寺遺跡 | 35 | 人丸屋敷 I・茎葉跡 |
| 6 | 日高塙（廃定） | 16 | 東武志山根西巷跡 | 26 | 火丸作跡 I - Ⅲ | 36 | 伊八作跡 |
| 7 | 山古墳 | 17 | 中岡遺跡 | 27 | 豊津作跡 | 37 | 村前作跡 |
| 8 | 船六山古墳 | 18 | 日高遺跡 | 28 | 閑泉寺遺跡 | 38 | 五反川作跡 |
| 9 | 福島山古墳 | 19 | 日高遺跡 | 29 | 東川作跡 | 39 | 照野分合跡 I・Ⅱ・茎葉跡 |
| 10 | 愛宕山古墳 | 20 | 島山作跡 | 30 | 東光作跡 I - Ⅲ | 40 | 村東作跡 |
| | | | | | | 31 | 人丸七地氷遺跡 |

| 番号 | 道跡名 | 番号 | 道跡名 | 番号 | 道跡名 | 番号 | 道跡名 |
|----|--------------|----|--------------|----|--------------|----|------------|
| 56 | 松井村-花内-豊前-巨勢 | 56 | 松井村-花内-豊前-巨勢 | 66 | 松井村-花内-豊前-巨勢 | 72 | 久米站跡道跡 |
| 57 | 松井村-西豊前 | 57 | 松井村-中豊前-巨勢 | 67 | 松井村-中豊前-巨勢 | 73 | 久米站跡道跡 |
| 58 | 松井村-中豊前-巨勢 | 58 | 松井村-内里-豊前 | 68 | 松井村-内里-豊前 | 74 | 久米站跡道跡 |
| 59 | 元町村-小見瀬 | 59 | 元町村-内里-豊前 | 69 | 元町村-小見瀬-豊前 | 75 | 久米站跡道跡 |
| 60 | 元町村-内里-豊前 | 60 | 元町村-内里-豊前 | 76 | 元町村-小見瀬-豊前 | 76 | 久米站跡明神山-豊前 |

| 番号 | 遺跡名 | 調査年度 | 時代:主な遺跡・出土遺物 |
|--------------|---|---|--|
| 前川閣遺跡群II・Ⅲ・Ⅳ | 2002 2002～2004 2004 1993 1995 | 桃文・古墳・平安・笠置神社・ 古墳・木造・墓葬・ 古墳・瓦・墓葬・平安・大津 古墳・瓦・墓葬・平安・大津 | 桃文・古墳・平安・笠置神社・ 古墳・木造・墓葬・平安・大津 古墳・瓦・墓葬・平安・大津 古墳・瓦・墓葬・平安・大津 |
| 元郷町北川遺跡 | 2002～04 | 桃文・古墳・瓦・墓葬・ 古墳・木造・上部・構造・中層・人骨跡 | 桃文・古墳・瓦・墓葬・ 古墳・木造・上部・構造・中層・人骨跡 |
| 元郷町牛島川遺跡 | 2002～04 | 古墳・瓦・墓葬・ 古墳・木造・上部・構造・中層・人骨跡 | 古墳・瓦・墓葬・ 古墳・木造・上部・構造・中層・人骨跡 |
| 元郷町中学校遺跡 | 2016 | 古墳・瓦・墓葬・ 古墳・木造・上部・構造・中層・人骨跡 | 古墳・瓦・墓葬・ 古墳・木造・上部・構造・中層・人骨跡 |

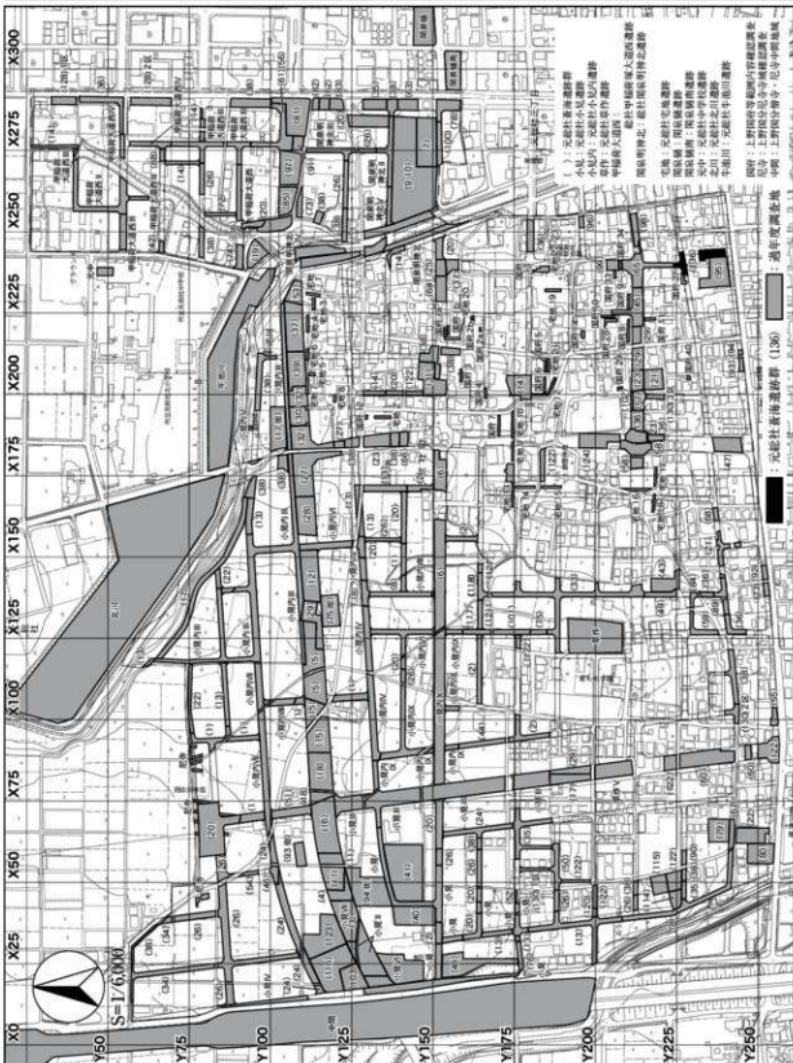


Fig. 4 周辺調査地点とグリッド設定図

III 調査の方針と経過

1 調査範囲と基本方針

委託調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業における道路および造成予定地であり、便宜的に北側をA区、南側の調査区をB区とした。総調査面積は696m²である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第IX系）X = 44000.000, Y = - 72200.000を基点とする4mピッチのものを使用し、経線をX、緯線をYとして北西隅を基点に番付して呼称とした。公共座標は次のとおりである。

| 測点 | 日本測地系（第IX系） | 世界測地系（第IX系 测地成果 2011） |
|-----------------|------------------------------------|------------------------------------|
| A区 X 240, Y 225 | X = 43100.000 m, Y = - 71240.000 m | X = 43454.912 m, Y = - 71531.761 m |
| B区 X 242, Y 232 | X = 43072.000 m, Y = - 71232.000 m | X = 43426.913 m, Y = - 71523.767 m |

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.45バックホー）にて表土掘削を行い、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精查、測量・写真撮影の手順で実施した。出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものはNa遺物とし、他の覆土中の破片等について一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行い、断面図については一部オルソーフォトに変換して編集を行った。記録写真は35mmモノクロ・リバーサル、デジタルカメラの3種類を用いて撮影し、調査区の全景についてはドローンでの撮影を実施した。整理作業での出土遺物の計測は、キーエンス社製3Dスキャナー（VL300）による機械計測を行った。

2 調査経過

令和元年10月15日に調査区設定および器材準備を実施した。16日に重機・プレハブ・器材の搬入を行い、重機による表土掘削を開始した。17日から併行して、遺構確認および遺構掘り下げを行った。11月15日にドローンによる全景撮影を実施し、同日に前橋市教育委員会による検査を受けた。その後、A区にて検出した基壇状遺構の断ち割り調査等を実施した後、29日に埋め戻しを完了し現地での発掘調査を終了した。12月1日より整理作業および報告書作成を実施した。

IV 基本層序

A区では総社砂層漸移層（V層）を遺構確認面とした。B区は地形の傾斜に加えて削平が著しく、表土直下が総社砂層漸移層（V層）、部分的に総社砂層（VI層）となっており、V・VI層を遺構確認面として調査を実施した。

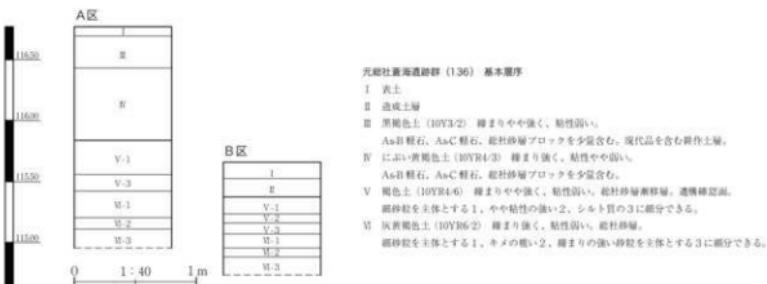


Fig.5 基本層序

V 遺構と遺物

1 A区

(1) 壓穴住居跡

H-1号住居跡 (Fig. 7・8・19, PL. 2・4)

位置 X237・238、Y226・227 主軸方向 N - 84° - E 規模 東西軸 3.04 m、南北軸 (2.36) m、壁現高 0.07 m。北側は調査区外となるため、南北規模は把握できず。上部は削平されており、床面までが非常に浅い。面積 (4.89) m² 床面 カマド前を中心全体的に硬化する。カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 0.68 m、燃焼部幅 0.26 m、袖の残存長は左(北)が 0.20 m、右(南)が 0.23 m、煙道は壁外に 0.33 m 突出している。住居同様に削平を受け、ほぼ使用面での検出となっている。貯藏穴 長軸 0.72 m、短軸 0.53 m、深さ 0.21 m を測る、楕円形の貯藏穴が住居南東隅で検出された。柱穴 P 1・2 の 2 基が検出された。掘り方 総社砂層を掘り込み、黄褐色砂質ブロックを少量含む暗褐色土により構築されている。重複 B-1 と重複し、新旧関係は B-1 → 本遺構である。出土遺物 須恵器高台付塊、羽釜等が出土しており、掘り方から出土した須恵器塊 (1) を図示。時期 出土遺物から 10 世紀前半と考えられる。

H-2号住居跡 (Fig. 8・19, PL. 2・4)

位置 X237、Y227・228 主軸方向 N - 88° - E 規模 東西軸 (1.54) m、南北軸 (2.57) m、壁現高 0.24 m。調査区西端で検出。北側および西側は調査区外となる。面積 (2.46) m² 床面 カマド前を中心硬化する。カマド 東壁南寄りに 1 基検出。確認長 1.17 m、燃焼部幅 0.54 m、煙道は壁外に 0.69 m 突出している。両袖は残存せず。貯藏穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層を掘り込み、粘性の強い灰黄褐色土の貼床を持つ。非常に強く硬化している。重複 B-1 と重複し、新旧関係は B-1 → 本遺構である。出土遺物 須恵器高台付塊、羽釜等が出土しており、カマドから出土した須恵器高台付塊 (1)、塊 (2) を図示。

(1) は足高高台となっている。時期 出土遺物から 10 世紀中頃と考えられる。

H-3号住居跡 (Fig. 8・19, PL. 2・4)

位置 X240・241、Y226・227 主軸方向 N - 79° - E 規模 東西軸 1.96 m、南北軸 1.83 m、壁現高 0.11 m。調査区中央で検出した。面積 3.00 m² 床面 カマド前が硬化する。カマド 東壁北寄りに 1 基検出。確認長 0.33 m、燃焼部幅 0.39 m、煙道は壁外に 0.25 m 突出している。両袖は残存せず。貯藏穴 検出されず。柱穴 1 基が検出された。掘り方 総社砂層を掘り込み床面とする、地山硬化床。重複 D-6、P-4・5・8 と重複し、新旧関係は本遺構 → D-6、P-4・5・8 である。出土遺物 須恵器塊、羽釜等が出土しており、覆土から出土した須恵器塊 (1) を図示。酸化焰焼成で内面にミガキが見られる。底部は欠損するが、高台塊と考えられる。時期 出土遺物から 10 世紀前半と考えられる。

H-4号住居跡 (Fig. 9・19, PL. 2・4)

位置 X238・239、Y227・228 主軸方向 N - 74° - E 規模 東西軸 4.11 m、南北軸 (3.27) m、壁現高 0.24 m。南側は調査区外で、正確な南北規模は把握できません。面積 (13.11) m² 床面 検出箇所中央を中心として硬化する。カマド 検出されず。貯藏穴 検出されず。柱穴 7 基が検出された。P 6 は形状から柱穴となる可能性も考えられる。掘り方 総社砂層を掘り込んで床面とする、地山硬化床。重複 H-5、B-1 と重複関係し、新旧関係は H-5 → 本遺構 → B-1 である。出土遺物 須恵器壺・甕・瓶類、土師器壺・甕が出土しており、床面直上の土師器壺 3 点 (1~3) を図示。時期 出土遺物から 7 世紀後半と考えられる。

H-5号住居跡 (Fig. 9・19, PL. 2・4)

位置 X238・239、Y226・227 主軸方向 N - 74° - E 規模 東西軸 3.36 m、南北軸 3.07 m、壁現高 0.28 m。南西隅は H-4 と重複し、壊されている。面積 (4.55) m² 床面 カマド前を中心全体的に硬化する。

カマド 東壁南寄りに1基検出。確認長131m、燃焼部幅0.48m。袖の残存長は左（北）が0.36m、右（南）が0.45m、煙道は壁外に0.79m突出している。カマド天井部の残存状態が良く、煙道から撃出しまで確認できる。両袖ともに砂岩を石墨として使用しており、天井に架けていたと思われる砂岩も焚口で検出している。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層を掘り込んで床面とする、地山硬化床。重複 H-4、B-1、D-15・17と重複し、新旧関係は本遺構→H-4→B-1→D-15・17である。出土遺物 須恵器壺・甕・瓶類、土師器壺・甕が出土しており、床面直上から出土した土師器壺3点（1～3）を図示。

時期 出土遺物から7世紀中頃～後半と考えられる。

H-6号住居跡 (Fig.10, PL. 2)

位置 X243・244、Y225・226 主軸方向 N-68°-E 規模 東西軸(1.26)m、南北軸(3.49)m、壁現高0.32m。調査区南東隅、基壇状遺構の下層にて検出した。大半は調査区外となる。面積 (3.63) m² 床面 平坦な床面で、住居隅の検出のためか部分的に硬化が見られるのみである。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層を掘り込んで床面とする、地山硬化床。重複 基壇状遺構、B-2、D-19と重複し、新旧関係はD-19→本遺構→B-2→基壇状遺構である。D-19は立ち上がりが明確ではなく、上面に硬化面も認められないが位置関係から、本遺構の床下土坑となる可能性も考えられる。

出土遺物 土師器壺・甕が出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 重複関係や出土遺物から7世紀代の遺構と考えられる。

H-7号住居跡 (Fig.10, PL. 2)

位置 X244、Y226 主軸方向 N-80°-E 規模 東西軸(0.25)m、南北軸1.43m、壁現高0.70m。基壇状遺構の下層にて検出した。東側は調査区外となるため、部分的な検出に留まった。面積 (0.31) m² 床面 平坦な床面ではあるが、住居隅の検出のためか部分的に硬化が見られるのみである。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層を掘り込む。重複 H-6・8、基壇状遺構と重複し、新旧関係はH-6・8→本遺構→基壇状遺構である。出土遺物 須土師器壺・甕（台付甕か）が出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。時期 重複関係や出土遺物から8世紀以降と考えられる。備考 整理作業段階で検討した結果、検出位置や形状・規模等から住居跡ではなく、B-2号掘立柱建物の柱穴と判断した。

H-8号住居跡 (Fig.10, PL. 2)

位置 X243・244、Y226・227 主軸方向 N-79°-E 規模 東西軸(1.61)m、南北軸(1.61)m、壁現高0.18m。基壇状遺構の下層にて検出した。東側および南側は調査区外となるため、北西隅の検出である。面積 (1.66) m² 床面 平坦な床面ではあるが、住居隅の検出のためか部分的に硬化が見られるのみである。カマド 検出されず。貯蔵穴 検出されず。柱穴 検出されず。掘り方 総社砂層を掘り込む。重複 基壇状遺構、B-2と重複し、新旧関係は本遺構→B-2→基壇状遺構である。出土遺物 土師器壺・甕が出土しているが、いずれも小破片のため図示には至らず。時期 重複関係等から7世紀代の遺構と考えられる。

(2) 建物跡

基壇状遺構 (Fig.11・12・19, PL. 2・3・4)

位置 X241～244、Y225～228 主軸方向 N-10°-W 規模 東西軸(10.7)m、南北軸(10.9)m。形状等 版築状の盛土を施した、総地業の遺構である。上面および西端は現代のカクランを受けているが、残存状態の良好な箇所で0.73mの厚さを測る。総社砂層に由来する黄褐色砂質土、As-C軽石を含む黒褐色土を中心として互層状に堆積しており、非常に堅緻である。断面観察から大きく4つに大別でき、各層は数cm単位に細分できる。礎石を据え付けた痕跡や根石等は確認されなかったが、掘り下げ段階で盛土中から多数の安山岩を中心

とする人頭大の礫を検出した。規則性はなく、礫周辺に掘り込まれた痕跡も見られないことから、盛土の補強を目的として入れられたものと考えておきたい。なお、調査区内での全容把握が困難であったため、南北方向にトレンチを設定して範囲確認調査を行った。結果的に地業が延伸することは確認できたが、北側は中世の蒼海城の堀跡(W-1)により、南側はカクランにより全体の正確な規模は把握し得なかった。残存状況からは一辺11mを超える規模を持つものと推察される。重複 H-6・8、B-2、D-18~22、P-11と重複し、新旧関係はH-6・8、D-19→B-2→本遺構→D-18・20~22→P-11である。出土遺物 版築土中から出土した須恵器壺(1)・瓶類(2)、土師器高杯(3)、土師器甕(4)を図示した。(1)はTK209型式と考えられ6世紀後半から7世紀前半、(2)は6世紀代と時期比定でき、周辺遺構からの混入遺物である。

時期 重複関係等から8・9世紀代の遺構と考えられる。

B-1号建物跡（布地業建物跡）(Fig.13・14, PL. 3)

位置 X237~240、Y225~228 主軸方向 N-11°-W 規模 東西軸12.6m、南北軸7.8mを測る。桁行5間、梁行は明確な柱痕が認められなかったことから判然としないが、桁行の柱心々間が約2.3mで一定しておらず、これから推定すると梁行3間となる。柱間寸法で桁行総長11.5m、梁行総長6.9mを測る。形状等 溝状に掘り込む、布地業による建物跡であり、6条の掘り込みを確認した。それぞれ上端幅で0.9~1.3mを測り、総社砂層および先行する遺構覆土を断面台形状に20cm前後掘り込んでいる。底面には掘削痕も確認できる。土層は版築状の堆積が見られ堅緻であるが、B-1-6についてはやや縁まりが弱い。礎石を据え付けた痕跡や根石等は確認されなかった。調査区南西隅に試掘トレンチを設定したところB-1-1の延伸部が検出されコの字状に巡ることが確認され、南北幅および西端の確定に至った。後日の前橋市教育委員会による確認調査でB-1-6も南側へ延びることが確認された。重複 H-1・2・4・5、P-10と重複し、新旧関係はH-4・5→本遺構→H-1・2、P-10である。出土遺物 それぞれの覆土中から土師器壺・甕が出土しているが、小破片のため図示には至らず。時期 重複関係や出土遺物から8・9世紀代の遺構と考えられる。

B-2号建物跡 (Fig.15・19, PL. 3・4)

位置 X242~244、Y225~227 主軸方向 N-13°-W 規模 確認範囲での規模であるが、桁行3間、梁行2間である。桁行・梁行の柱間は約2.0mとほぼ一定であり、柱間寸法で桁行総長6.0m、梁行総長4.0mとなるが、東・南側は調査区外となるため、さらに規模が大きくなることも考えられる。形状等 上述したH-7号住居跡も本遺構に伴う可能性が極めて高いものであり、先行トレンチ内の断面観察で確認したB-2-6・7を含め、9基の柱痕を検出した。B-2-5以外は平面形状が隅丸長方形を呈する。B-2-1・3・4・7の4基には底面中央付近に硬く締まった層が確認でき柱のアタリと考えられる。重複 H-6・8、基壇状遺構と重複し、新旧関係はH-6・8→本遺構→基壇状遺構である。出土遺物 それぞれの覆土中から土師器壺・甕が出土しており、B-2-2から出土した土師器壺(1・2)を図示。7世紀末から8世紀初頭と考えられる。

時期 重複関係や出土遺物から8・9世紀代の遺構と考えられる。

(3) 溝跡

W-1号溝跡 (Fig.16・19・20, PL. 3)

位置 X239~240、Y 224~225 主軸方向 N-84°-E 規模 長さ(5.71)m、上幅(5.03)m、下幅0.11m、深さ1.46m。形状等 東西方向に走行し、下幅が10cm前後の薙研掘りとなる。北側ではテラス状の平坦面を設けている。覆土中には若干のAs-B軽石が混入し、下層では総社砂層の風化堆積土が確認できる。明確な溝水の痕跡は認められない。重複 なし。出土遺物 かわらけ(1)、内耳鍋(2)、茶臼(3)、石臼(4)を図示。時期 規模・形状から蒼海城の堀と考えられ、15世紀後半と想定される。備考 上野国府等範囲内容確認調査27Trにおいて検出された、東西方向に走行するW-1号溝跡と同一の遺構である。

(4) 井戸跡

I - 1号井戸跡 (Fig.17・20, PL. 5)

位置 X 184、Y 223 規模 長軸 2.88 m、短軸 2.45 m、深さ (1.13) m。 形状等 平面形状は円形を呈する。
重複 なし。 出土遺物 酸化焰焼成の須恵器高台付塊（1）、石臼（2）を図示。高台付塊は周辺遺構からの混入である。 時期 出土遺物から中・近世の遺構と考えられる。

(5) 焼土跡・土坑・ピット

本調査区では焼土跡 1 基、土坑 21 基 (D - 14 は欠番)、ピット 11 基を確認している。各計測値については「Tab. 2 A 区焼土跡・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

Tab. 2 A 区焼土跡・土坑・ピット計測表

| 遺構名 | グリッド | 長軸 (m) | 短軸 (m) | 深さ (m) | 平面形状 | 重複 (古→新) | 出土遺物 | 備考 |
|--------|--------------------------|--------|--------|--------|-------|----------------|--------------|----------|
| 1号焼土跡 | X 240、Y 227 | 1.01 | 0.51 | 0.09 | 不整規円形 | | | |
| D - 1 | X 239、Y 226 | 0.78 | 0.61 | 0.05 | 不整方形 | D - 2 → D - 1 | | |
| D - 2 | X 239、Y 225・226 | 1.51 | 0.88 | 0.23 | 隅丸方形 | D - 2 → D - 1 | 須 7、土 1 | 10世紀前半 |
| D - 3 | X 239、Y 226 | 1.01 | 0.80 | 0.30 | 隅丸方形 | | 土 4 | 7世紀か |
| D - 4 | X 239、Y 227 | 1.01 | 0.94 | 0.19 | 円形 | | | |
| D - 5 | X 239・240、Y 227 (094) | 0.68 | 0.16 | | 椭円形 | | | |
| D - 6 | X 240、Y 227 | 1.55 | 1.25 | 0.37 | 不整方形 | H - 3 → D - 6 | | |
| D - 7 | X 238、Y 226 | 0.61 | 0.50 | 0.08 | 円形 | P - 6 → P - 5 | 須 1、土 1 | 7世紀か |
| D - 8 | X 240、Y 226・227 | 1.00 | (0.65) | 0.19 | 椭円形 | D - 8 → D - 9 | 須 13、土 1、跳 1 | 10世紀代 |
| D - 9 | X 240、Y 227 | 0.64 | 0.58 | 0.20 | 方形 | D - 8 → D - 9 | 土 3 | |
| D - 10 | X 240、Y 226 | 1.20 | (0.74) | 0.35 | 隅丸長方形 | | 須 10、土 17 | 10世紀代 |
| D - 11 | X 240、Y 226 | 0.65 | 0.58 | 0.21 | 方形 | | 土 3 | |
| D - 12 | X 239、Y 226 | 1.70 | 0.69 | 0.33 | 椭円形 | | 土 7 | |
| D - 13 | X 240、Y 226 | 0.46 | 0.45 | 0.13 | 円形 | | 土 1 | |
| D - 14 | 欠番 | | | | | | | |
| D - 15 | X 238・239、Y 227 | 0.67 | 0.51 | 0.18 | 椭円形 | H - 5 → D - 15 | | |
| D - 16 | X 237・239、Y 228 | 0.73 | 0.72 | 0.14 | 隅丸方形 | | | |
| D - 17 | X 239、Y 227 | 0.88 | 0.76 | 0.36 | 椭円形 | H - 5 → D - 17 | 土 2 | |
| D - 18 | X 243、Y 226・227 | 1.14 | 0.88 | 0.19 | 椭円形 | 基壇状 → D - 18 | 須 1、土 7 | 10世紀代 |
| D - 19 | X 243、Y 226 | 0.87 | (0.45) | 0.16 | 椭円形 | D - 19 → 基壇状 | | |
| D - 20 | X 241、Y 226・227 | 0.78 | 0.74 | 0.09 | 隅丸方形 | 基壇状 → D - 20 | | |
| D - 21 | X 241・242、Y 227 | 0.80 | 0.71 | 0.32 | 円形 | 基壇状 → D - 21 | 土 7 | 9世紀後半以降か |
| D - 22 | X 241、Y 226 | 1.12 | 0.98 | 0.07 | 不整方形 | 基壇状 → D - 22 | | |
| P - 1 | X 240、Y 227 | 0.43 | 0.41 | 0.15 | 円形 | | | |
| P - 2 | X 240、Y 226 | 0.50 | 0.49 | 0.16 | 円形 | | | |
| P - 3 | X 241、Y 226 | 0.62 | 0.53 | 0.31 | 椭円形 | | | |
| P - 4 | X 240、Y 226 | 0.28 | 0.28 | 0.12 | 円形 | H - 3 → P - 4 | | |
| P - 5 | X 240・241、Y 226 | 0.51 | 0.45 | 0.11 | 不整方形 | H - 3 → P - 5 | 須 1、土 7 | 10世紀代 |
| P - 6 | X 240、Y 226 | 0.23 | 0.23 | 0.33 | 方形 | | 土 2 | |
| P - 7 | X 240、Y 227 | 0.28 | 0.16 | 0.10 | 長方形 | | | |
| P - 8 | X 240、Y 226・227 | 1.02 | 0.67 | 0.41 | 椭円形 | H - 3 → P - 8 | 須 1、土 2 | |
| P - 9 | X 240、Y 227 | 0.35 | (0.21) | 0.14 | 長方形 | 1号焼土 → P - 9 | | |
| P - 10 | X 240、Y 227 | | | | 円形 | B - 1 → P - 10 | 須 1 | 10世紀中 |
| P - 11 | X 242、Y 226 | 0.23 | 0.19 | 0.09 | 方形 | 基壇状 → P - 11 | | |

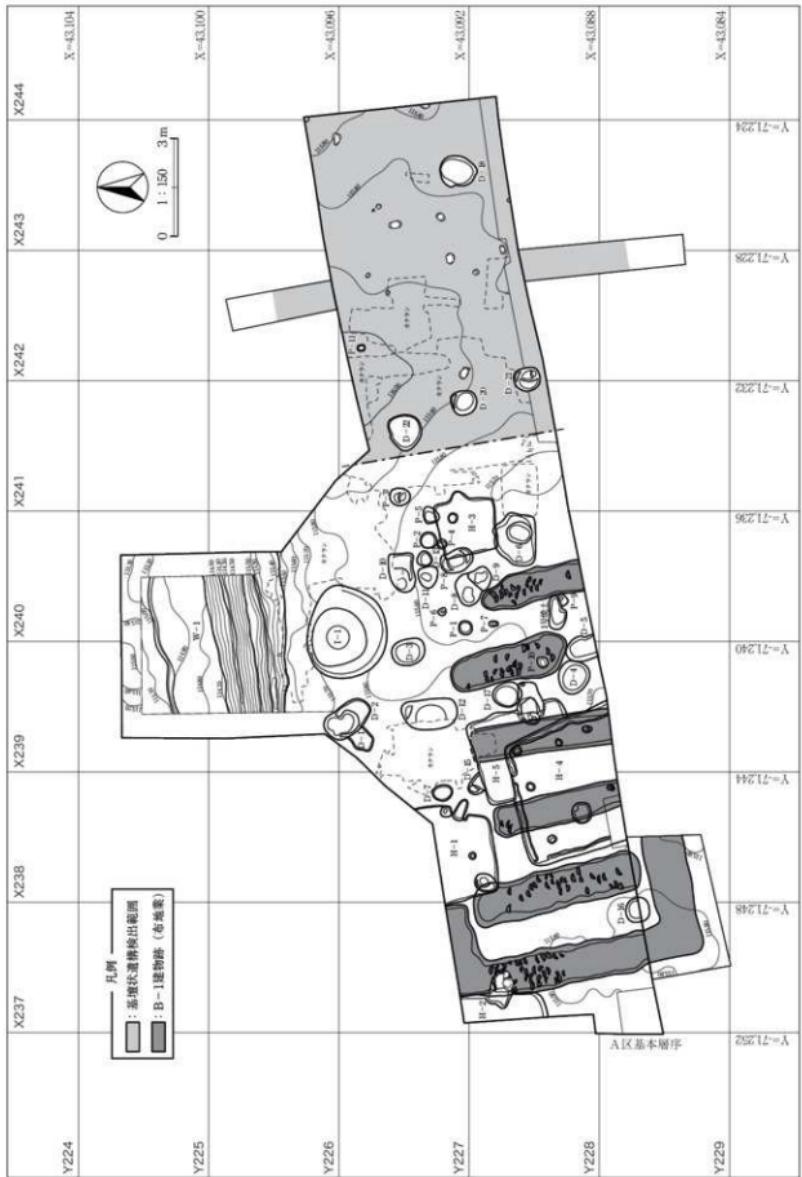


Fig. 6 A区 全体図

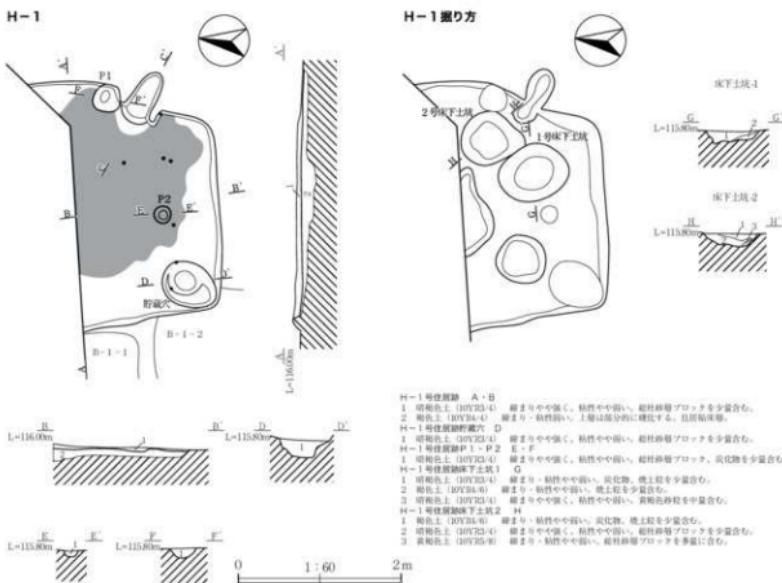
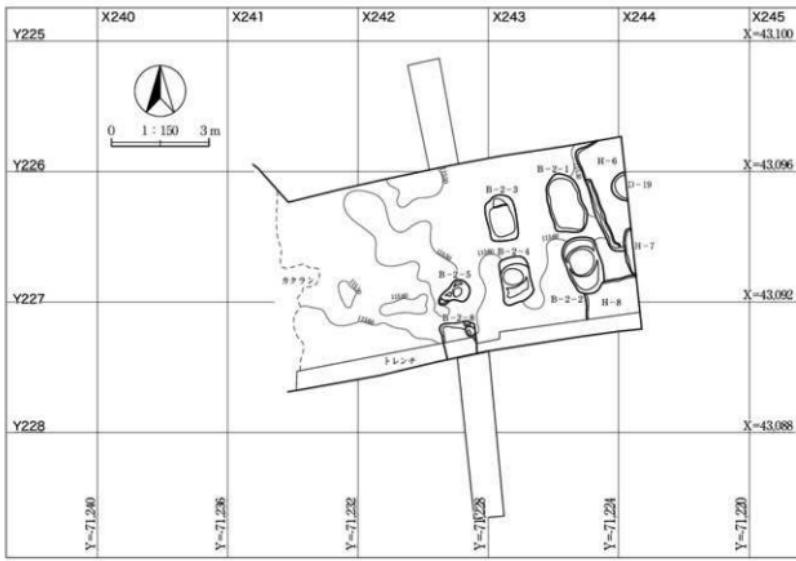


Fig. 7 A区 基塘下遗构全体图、H-1号住居跡

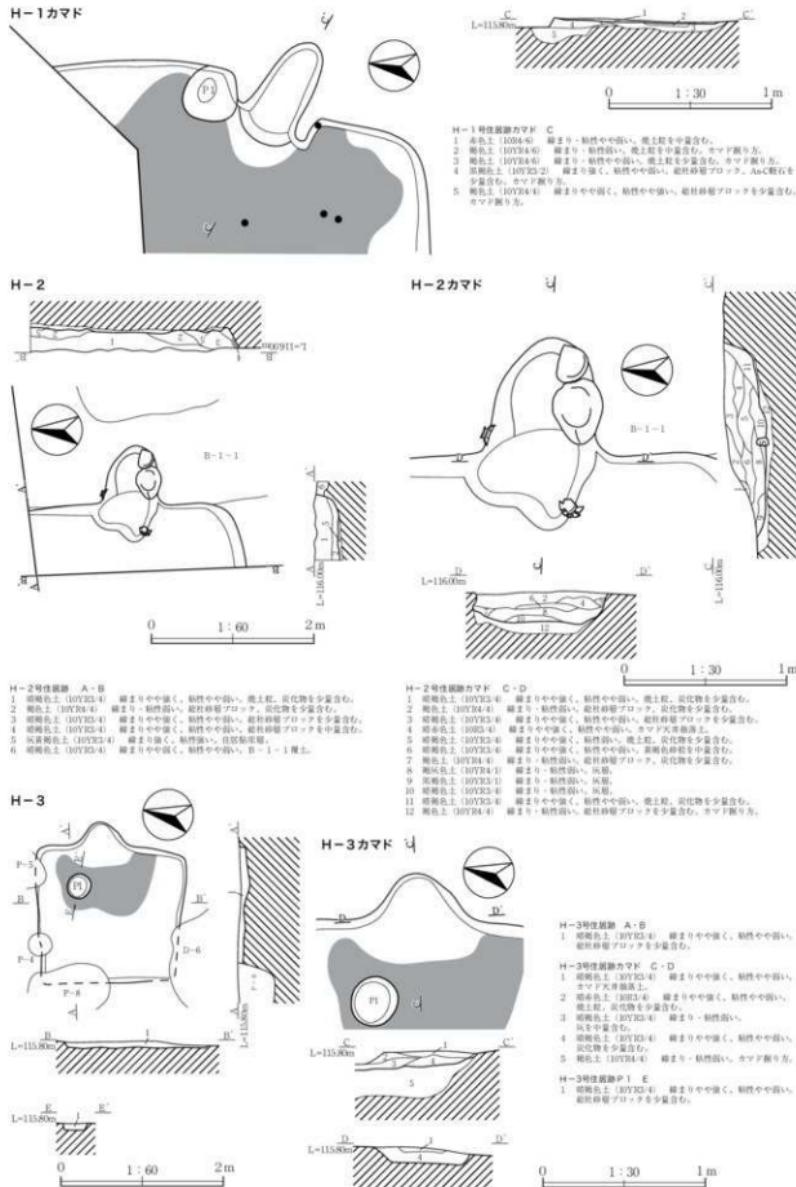
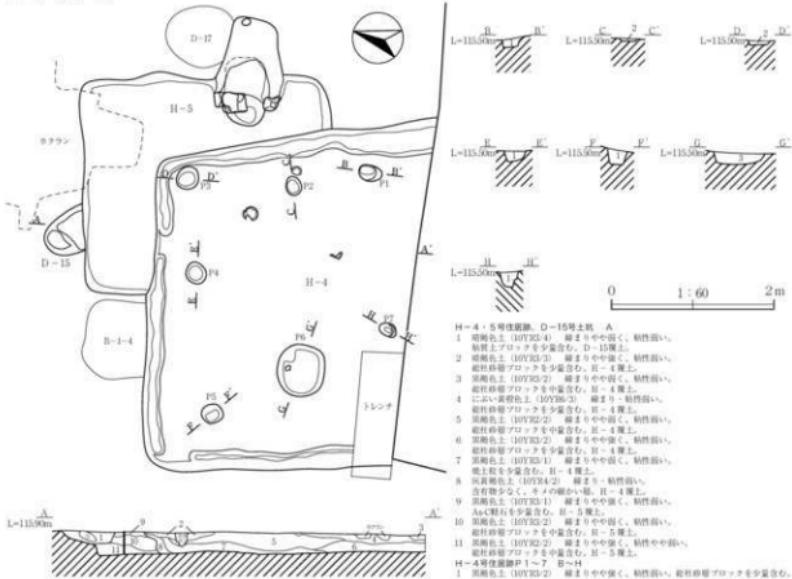


Fig. 8 A区 H-1号住居跡カマド、H-2・3号住居跡

H-4 · 5, D-15



H=5カマド

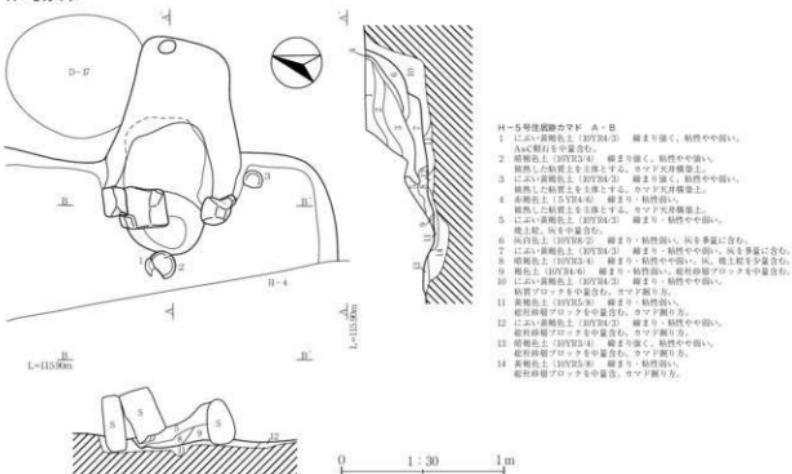
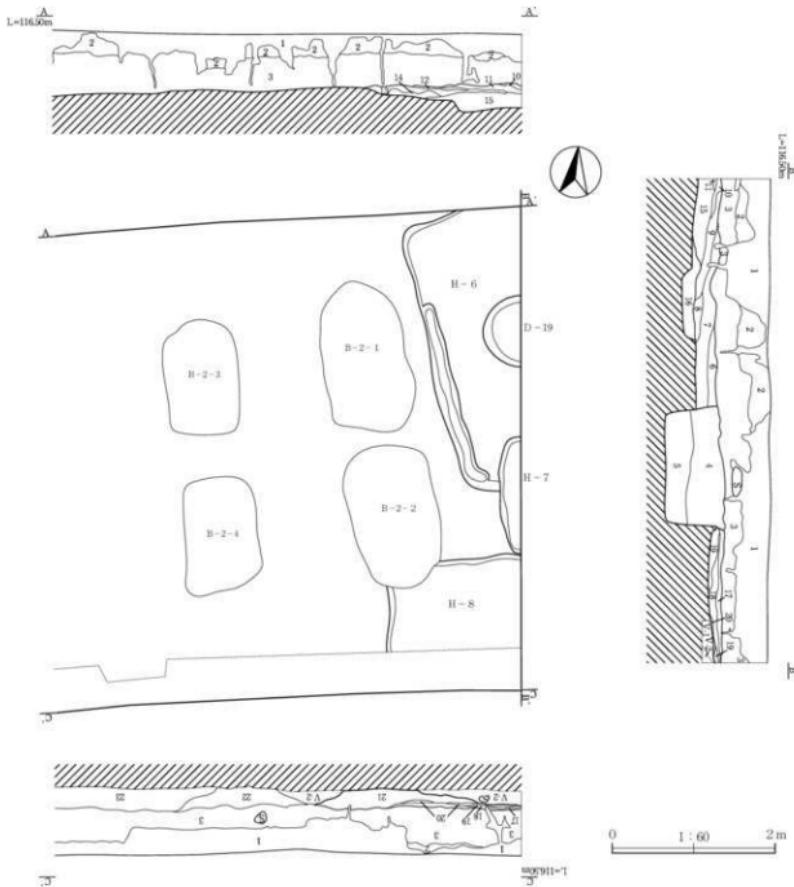


Fig. 9 A区 H-4·5号住居跡、D-15号土坑

H-6・7・8、D-19



H-6・7・8号住居跡、D-19号土坑 A・B・C

- 2 カクラン上層 風化土が混在し、緻密な土。
- 3 起伏複雑地盤の堆積土層
- 4 細粒褐色土 (10Y3/2-4) 緩まり・粘性やや弱い。絹状砂層プロックを少量含む。H-7覆土。
- 5 細粒褐色土 (10Y3/2-2) 緩まりやや強め。粘性やや弱い。絹状砂層プロック。AaC軽石を少量含む。H-7覆土。
- 6 細粒褐色土 (10Y3/2-4) 緩まり・粘性やや弱い。絹状砂層プロックを少量含む。H-6覆土。
- 7 細粒褐色土 (10Y3/2-4) 緩まり・粘性やや弱い。AaC軽石を少量含む。H-6覆土。
- 8 細粒褐色土 (10Y3/2-2) 緩まりやや強め。粘性弱い。絹状砂層プロック。AaC軽石を少量含む。H-6覆土。
- 9 細粒褐色土 (10Y3/2-2) 緩まりやや強め。粘性弱い。絹状砂層プロック。AaC軽石を少量含む。H-6覆土。
- 10 黒褐色土 (10Y3/2-1) 緩まりやや強く。粘性弱い。灰黑色色調のプロックを少量含む。H-6覆土。
- 11 黑褐色土 (10Y3/2-2) 緩まり・粘性弱い。
- 12 黑褐色土 (10Y3/2-1) 緩まり・粘性弱い。灰黑色色調のプロックを少量含む。H-6覆土。

- 13 黑褐色土 (10Y3/2-1) 緩まり・粘性弱い。灰黑色色調のプロックを少量含む。H-6覆土。
- 14 黑褐色土 (10Y3/2-1) 緩まり・粘性やや強め。絹状砂層プロックを少量含む。H-6覆土。
- 15 黑褐色土 (10Y3/2-2) 緩まり・粘性やや強め。絹状砂層プロックを少量含む。H-6覆土。
- 16 細粒褐色土 (10Y3/2-3) 緩まり・粘性弱い。絹状砂層プロックを少量含む。D-19覆土。
- 17 細粒褐色土 (10Y3/2-2) 緩まり・粘性弱い。絹状砂層プロックを少量含む。AaC軽石を少量含む。H-6覆土。
- 18 黑褐色土 (10Y3/2-2) 緩まりやや強め。粘性弱い。絹状砂層プロック。AaC軽石を少量含む。H-6覆土。
- 19 細粒褐色土 (10Y3/2-3) 緩まり・粘性やや強め。灰黑色色調のプロックを少量含む。H-6覆土。
- 20 黑褐色土 (10Y3/2-2) 緩まり・粘性やや強め。灰黑色色調のプロックを少量含む。H-6覆土。
- 21 黑褐色土 (10Y3/2-2) 緩まり・粘性弱い。絹状砂層プロックを少量含む。H-6覆土。
- 22 黑褐色土 (10Y3/2-1) 緩まり・粘性弱い。下部に硬面。H-6覆土。
- 23 黑褐色土 (10Y3/2-2) 緩土と・粘性弱い。絹状砂層プロックを少量含む。B-2覆土。

Fig.10 A区 H-6・7・8号住居跡、D-19号土坑

基壇状遺構

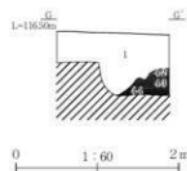
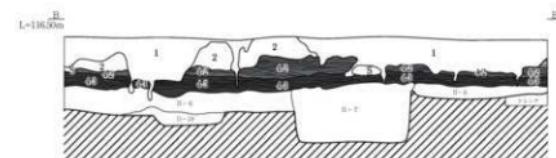
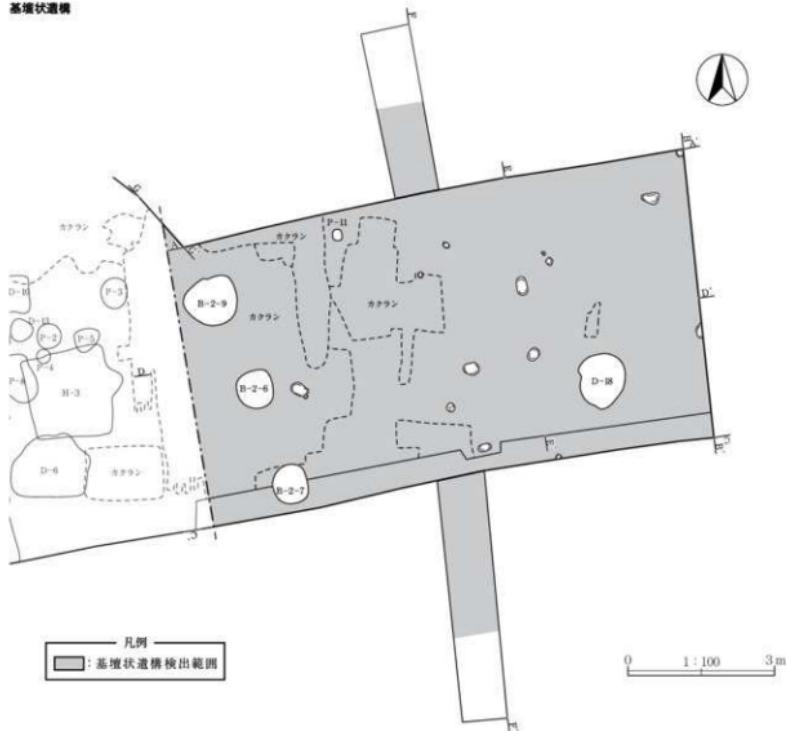


Fig.11 A区 基壇状遺構（1）

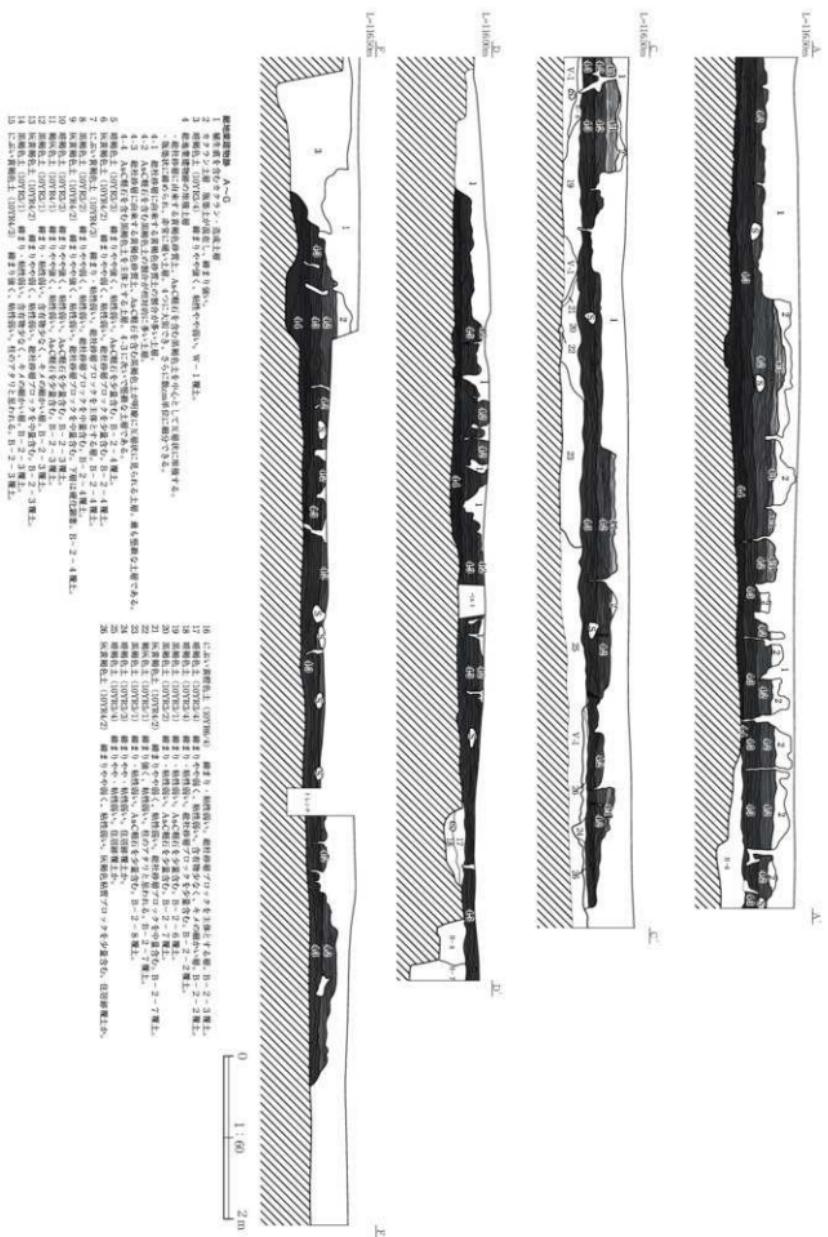


Fig.12 A区 基壇状造構(2)

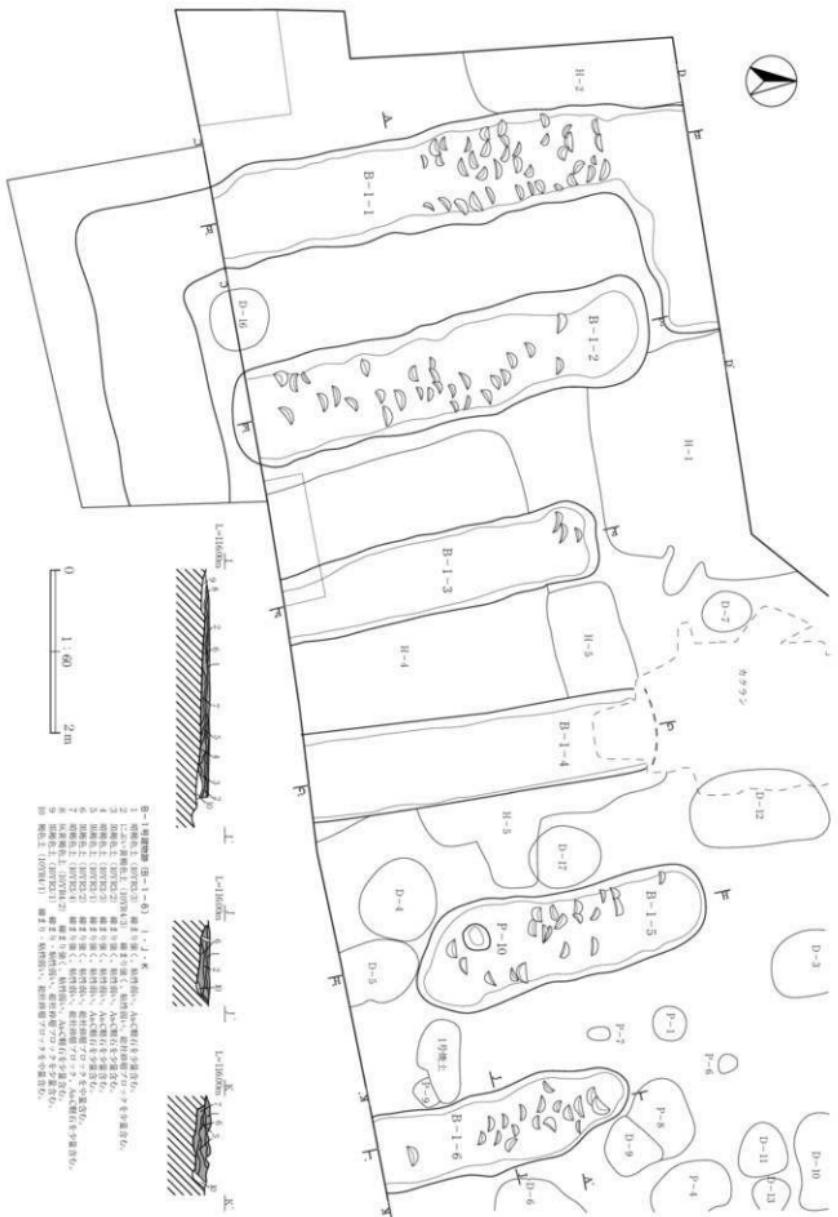


Fig.13 A区 B-1号建物跡 (1)

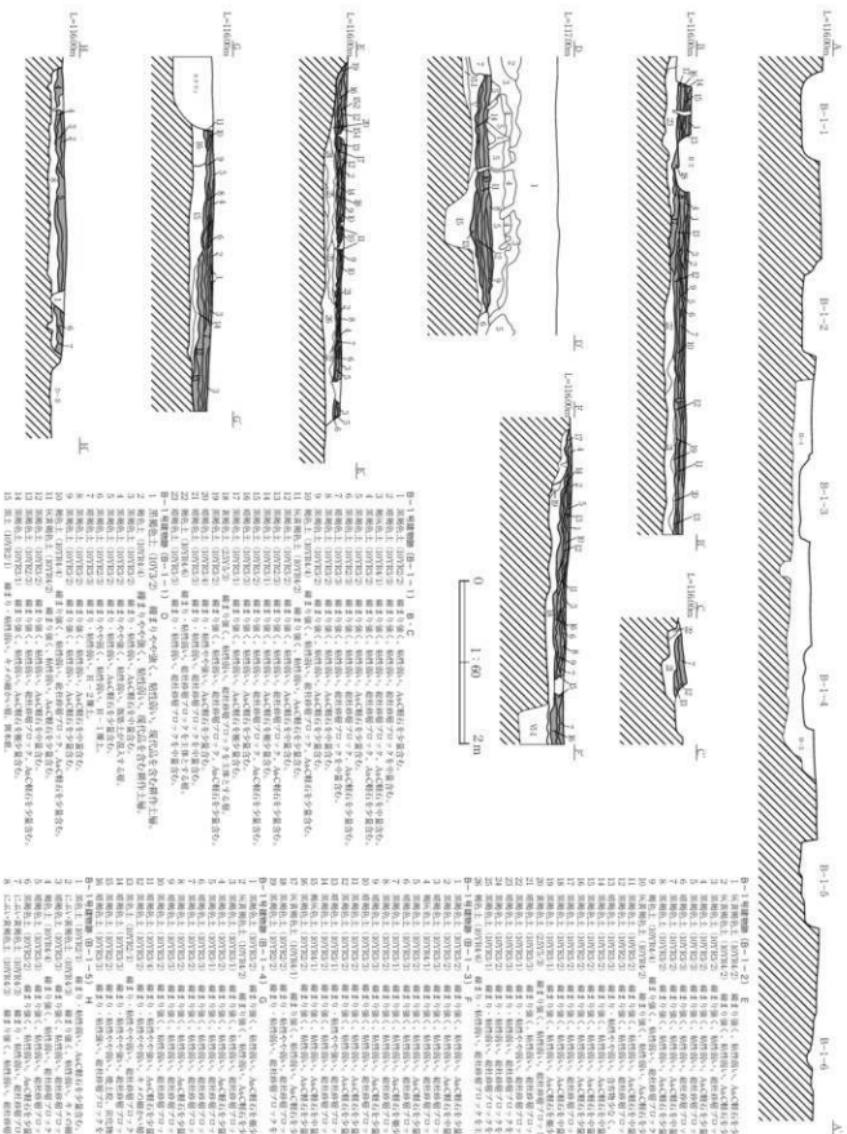
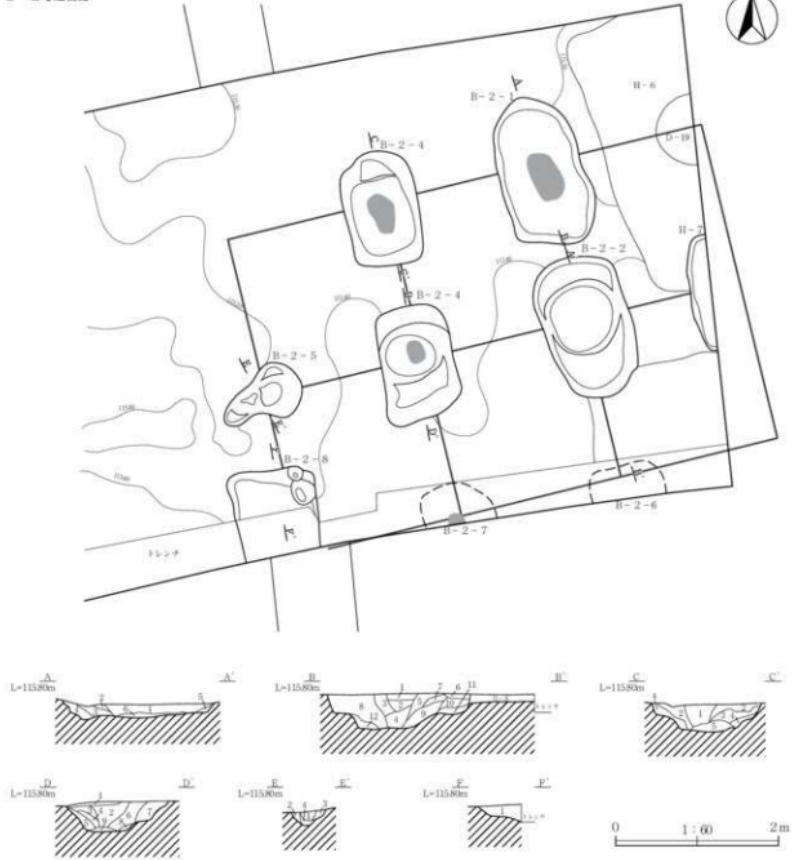


Fig.14 A区 B-1号建物跡(2)

B-2号建物跡



B-2号建物跡 (B-2-1) A

- 1 砂質粘土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。粒状砂層ブロック。AsC軽石を少量含む。
- 2 砂質粘土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。粒状砂層ブロックを中量含む。
- 3 黄褐色土 (BIV3-6) 繊毛りやや強く、粘性弱い。粒状砂層ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。粒状砂層ブロックを中量含む。
- 5 剥離土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。粒状砂層ブロックを少量含む。
- 6 砂質粘土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。よく礫化しており、柱のアリと想われる。
- 7 にじみ黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。柱のアリと想われる。
- 8 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。柱のアリと想われる。
- 9 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。粒状砂層ブロックを少量含む。
- 10 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。柱のアリと想われる。
- 11 剥離土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。柱のアリと想われる。
- 12 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。柱のアリと想われる。

B-2号建物跡 (B-2-3) C

- 1 黄褐色土 (BIV3-2) 繊毛りやや弱い。粒状砂層ブロック。AsC軽石を少量含む。
- 2 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや弱い。粘性弱い。粒状砂層ブロック。AsC軽石を少量含む。
- 3 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや弱い。粘性弱い。粒状砂層ブロック。AsC軽石を少量含む。
- 4 剥離土 (BIV3-4) 繊毛りやや弱い。粘性弱い。粒状砂層ブロックを少量含む。
- 5 剥離土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。よく礫化しており、柱のアリと想われる。

B-2号建物跡 (B-2-4) D

- 1 砂質粘土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。地土層。粒状砂層ブロック。AsC軽石を少量含む。
- 2 砂質粘土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。AsC軽石を中量含む。
- 3 黄褐色土 (BIV3-2) 繊毛りやや強く、粘性弱い。粒状砂層ブロック。AsC軽石を少量含む。
- 4 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。粒状砂層ブロックを少量含む。
- 5 剥離土 (BIV3-4) 繊毛りやや弱い。粒状砂層ブロックを少量含む。
- 6 砂質粘土 (BIV3-4) 繊毛りやや弱い。粘性弱い。粒状砂層ブロック。AsC軽石を少量含む。
- 7 剥離土 (BIV3-4) 繊毛りやや弱い。粘性弱い。柱のアリと想われる。
- 8 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや弱く、粘性弱い。柱のアリと想われる。
- 9 剥離土 (BIV3-4) 繊毛り強く、粘性弱い。よく礫化しており、柱のアリと想われる。

B-2号建物跡 (B-2-5) E

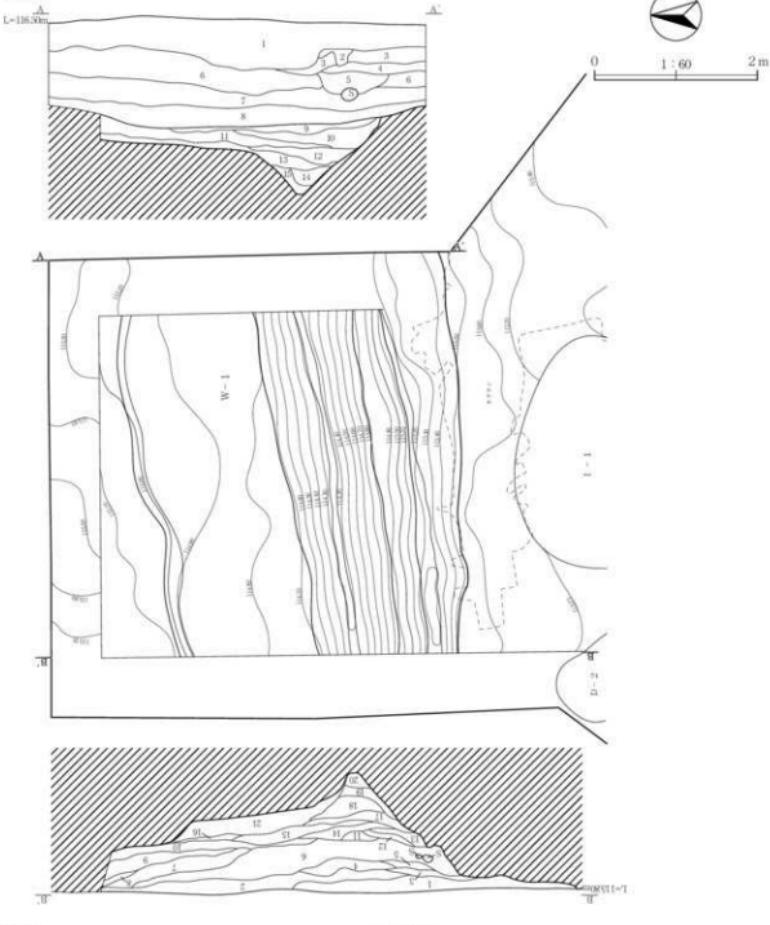
- 1 黄褐色土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。柱のアリと想われる。
- 2 剥離土 (BIV3-4) 繊毛りやや強く、粘性弱い。柱のアリと想われる。
- 3 黄褐色土 (BIV3-6) 繊毛りやや弱く、粘性弱い。柱のアリと想われる。

B-2号建物跡 (B-2-6) F

- 1 黑褐色土 (BIV3-1) 繊毛りやや強く、粘性弱い。AsC軽石を少量含む。

Fig.15 A区 B-2号建物跡

W-1号溝跡



W-1号溝跡 A

- カクタ層・赤土層
- 褐鉄色土 (D0Y32A) 膜まり・粘性弱・軽微な凹面。
- 褐鉄色土 (D0Y32B) 膜まり・粘性弱・、細粒砂層プロックを充満する層。
- 灰青褐色土 (D0Y34) 膜まりや軽く、粘性弱。
- 褐鉄色土 (D0Y34-1) 膜まり・粘性弱・、褐色のコルクリートを含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-2) 膜まり・粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-3) 膜まり・粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-4) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-5) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-6) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-7) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-8) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-9) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-10) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-11) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-12) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-13) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34-14) 膜まりや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y34A-2) 膜まりや軽く、粘性弱・、細粒砂層プロックを中量含む。

- 褐鉄色土 (D0Y35-4) 繊毛り・粘性不や軽い、As-B・As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-5) 繊毛り・粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-6) 繊毛り・粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-7) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-8) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-9) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-10) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-11) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-12) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-13) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-14) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-15) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-16) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-17) 繊毛り・粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-18) 繊毛り・粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-19) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 褐鉄色土 (D0Y35-20) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 黄褐色土 (D0Y36-4) 繊毛り・粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。
- 黄褐色土 (D0Y36-2) 繊毛りや軽く、粘性弱・、As-C鉄石を少量含む。

Fig.16 A区 W-1号溝跡

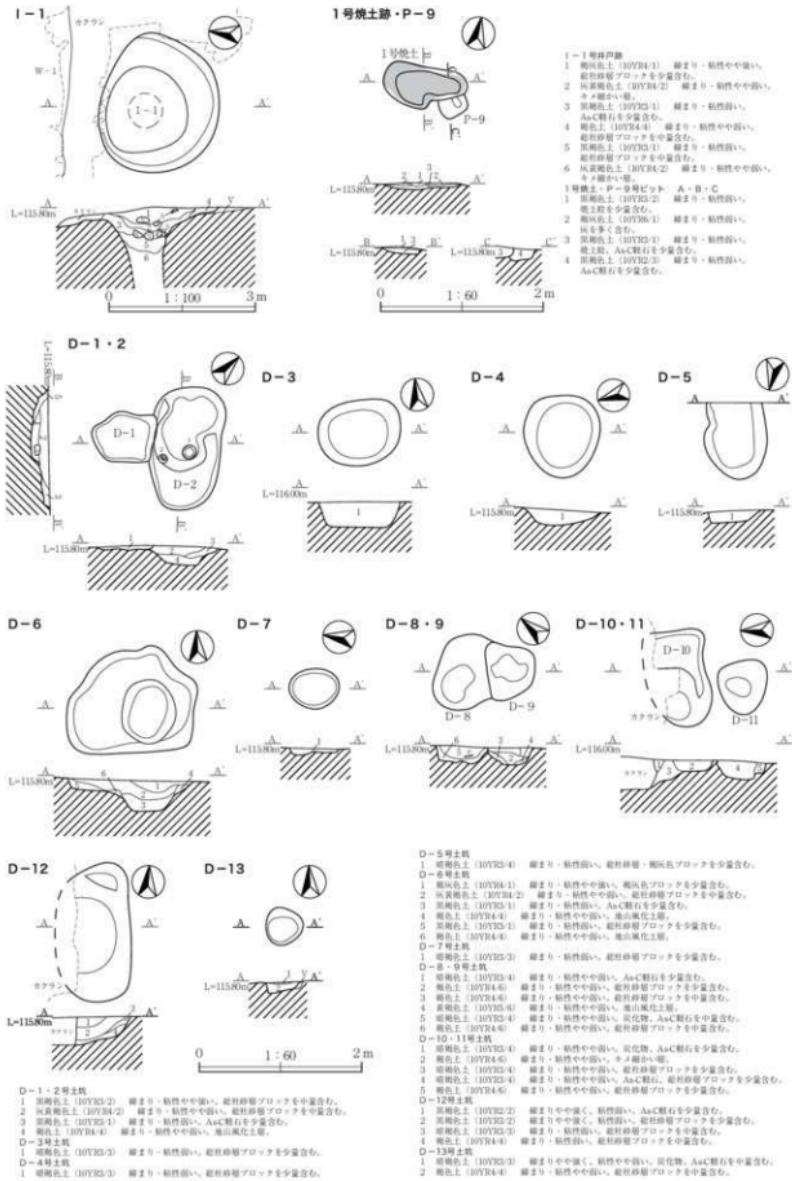


Fig.17 A区 1-1号井戸跡、1号焼土、土坑(1)

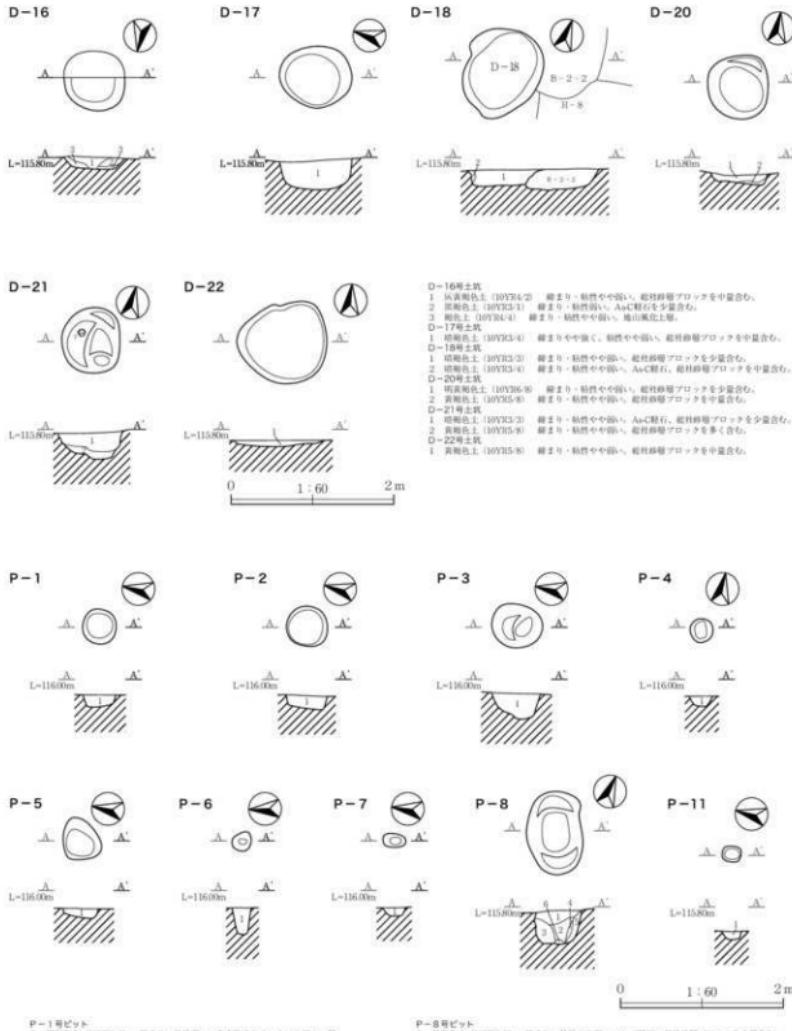
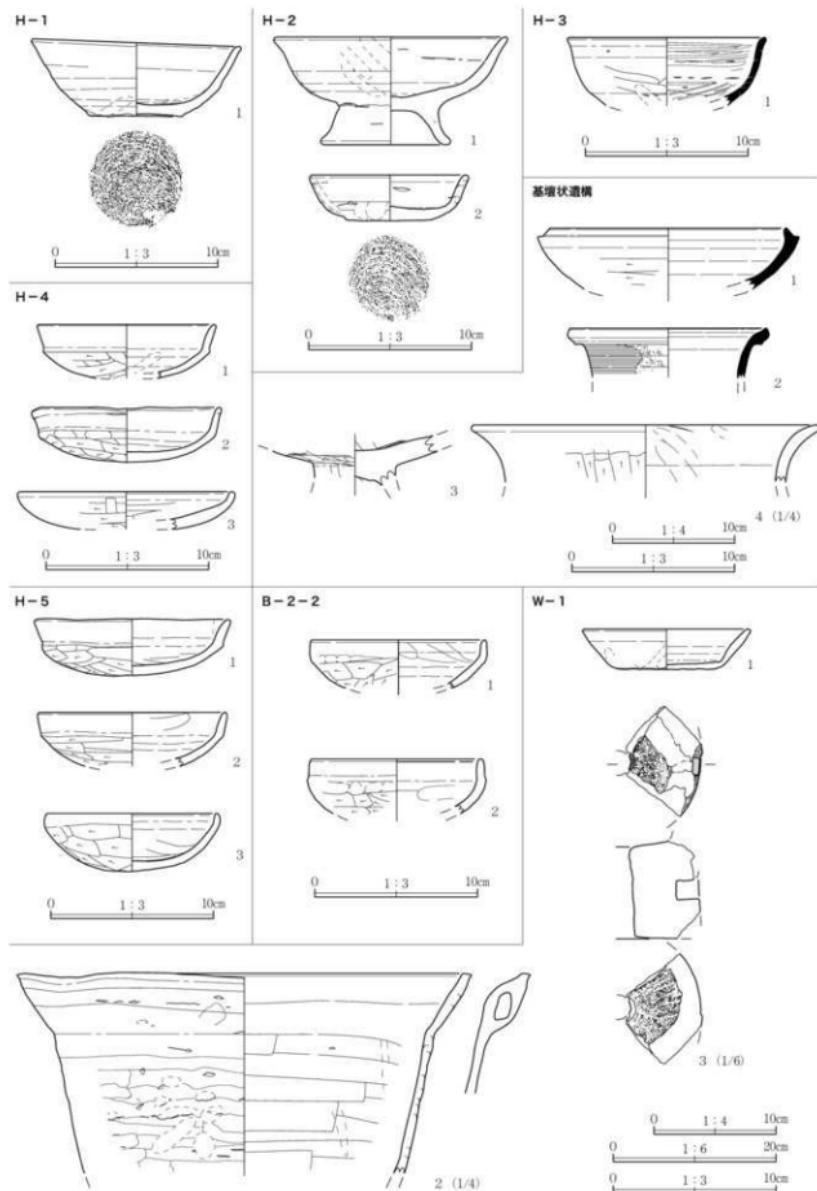


Fig.18 A区 土坑(2)、ビット



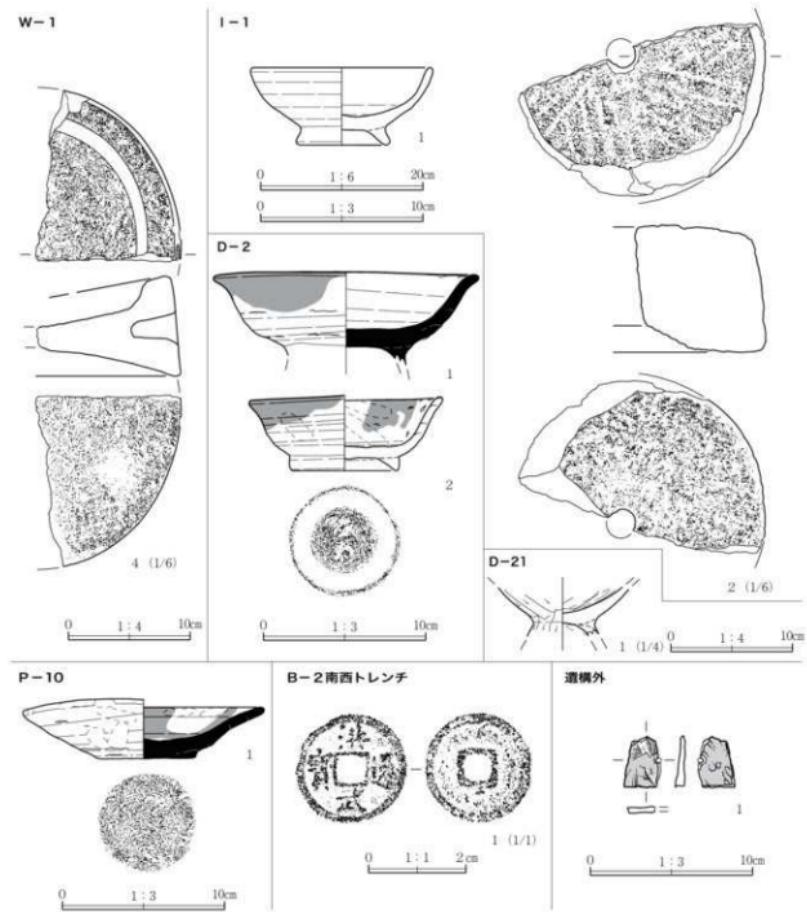


Fig.20 A区 出土遺物（2）

Tab. 3 A区出土遺物観察表

H-1

| No | 出土位置 | 種別・断面 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現存状況・備考 |
|----|------------|-----------|----|-----------|-----------|--------------------------|---------|-----|--------------------------|---------|
| 1 | 覆土 東部斜面 | 127 34 | 47 | 30cm×10cm | 30cm×10cm | 粗粒砂質粘土 中等程度の燒成 無施釉 | 明るめの茶褐色 | 茶褐色 | 内側に縦筋2本有り、底にリブ有り、底部凹凸有り。 | 2/3残存。 |

H-2

| No | 出土位置 | 種別・断面 | 口径 | 底径 | 高さ | 胎土 | 焼成 | 色調 | 器形、成・整形、文様等の特徴 | 現存状況・備考 |
|----|---------------|-----------|----|-----------|-----------|----------------|-----|-----|--------------------------|---------|
| 1 | %o. 2 東部斜面 | 114 28 | 68 | 30cm×10cm | 30cm×10cm | 中等程度の燒成 無施釉 | 茶褐色 | 茶褐色 | 内側に縦筋2本有り、底にリブ有り、底部凹凸有り。 | 2/3残存。 |
| 2 | %o. 1 中央斜面 | 95 43 | 28 | 30cm×10cm | 30cm×10cm | 中等程度の燒成 無施釉 | 茶褐色 | 茶褐色 | 内側に縦筋2本有り、底にリブ有り、底部凹凸有り。 | 4/5残存。 |

H-3

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|------|--------|------|-----|------|----|-----|----|--|----------------|
| 1 | 舊玉 | 須恵器 磁炉 | 11.0 | 3.5 | 14.0 | 灰土 | 無施土 | 内焰 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ。 | 口縁一部破損、縁端上部剥離。 |

H-4

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|-----------|-------|------|-----|------|--------|-----|----|--|--------------------------|
| 1 | 舊玉 | 土師器 精 | 10.6 | 3.5 | 13.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 口縁一部破損、 内焰直筒型。 |
| 2 | 5m. 1 - 2 | 土師器 精 | 11.5 | 4.0 | 3.8 | チャート灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 定形、 口沿下部4cm外観する。器みあら。 |
| 3 | 舊玉 | 土師器 精 | 11.0 | 3.5 | 12.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 口縁一部破損、 内焰直筒型。 |

H-5

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|-------|-------|------|-----|------|------------------|-----|----|--|-----------------------------|
| 1 | No. 1 | 土師器 精 | 11.0 | 3.5 | 13.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 3-1現存、 口沿下部4cm外観する。 |
| 2 | No. 1 | 土師器 精 | 11.0 | 3.5 | 13.0 | 石灰、灰土、 砂質灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 口縁一部破損、 内焰直筒型。 |
| 3 | No. 2 | 土師器 精 | 10.5 | 3.5 | 12.0 | 灰土、灰土灰 灰、砂質灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 3-1現存、 内焰直筒型で口縁直角して焼成する。 |

基壇状遺構

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|-------|-------|------|-----|------|------------------|-----|----|--|-----------------------------|
| 1 | No. 1 | 土師器 精 | 11.0 | 3.5 | 13.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 3-1現存、 口沿下部4cm外観する。 |
| 2 | No. 1 | 土師器 精 | 11.0 | 3.5 | 13.0 | 石灰、灰土、 砂質灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 口縁一部破損、 内焰直筒型。 |
| 3 | No. 2 | 土師器 精 | 10.5 | 3.5 | 12.0 | 灰土、灰土灰 灰、砂質灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 3-1現存、 内焰直筒型で口縁直角して焼成する。 |

B-2-2

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|------|-------|------|----|------|----------------|-----|----|--|-------------------|
| 1 | 舊玉 | 土師器 精 | 10.6 | - | 12.0 | チャート灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 口縁一部破損、 |
| 2 | 舊玉 | 土師器 精 | 11.0 | - | 12.0 | 白灰、灰土、 砂質灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 口縁一部破損、 内焰直筒型。 |

B-1 南西トレレンチ

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 国名 | 初期年代 | 材質 | 表面 | 形状 | 厚さ | 重量 | 備考 |
|----|------|-------|----|------------|----|-----|-----|----|-----|-------|
| 1 | 舊玉 | 灰陶罐 | 明 | 西周時代(1000) | 新 | 227 | 3.2 | 28 | 3.2 | 器底有鉢。 |

W-1

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|------|--------|------|------|------|----------------|-----|----|--|------------------------------|
| 1 | 舊玉 | 手取式灰陶罐 | 10.0 | 6.0 | 12.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 3-2現存、 |
| 2 | 舊玉 | 手取式灰陶罐 | 10.0 | 6.0 | 12.0 | 白灰、灰土、 砂質灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 口縁一部破損、 内焰直筒型。 |
| No | 出土位置 | 種別、器種 | 部位 | 底径 | 高さ | 石材 | 焼成 | 重さ | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
| 3 | 舊玉 | 白石器 | 東口 | - | 12.0 | 板状灰陶石器 | - | - | 上部は直筒型で下部は丸頭、口沿下部には縦溝を有す。 | 3-1現存、 内焰直筒型。 |
| 4 | 舊玉 | 白石器 | 東口 | 10.0 | 12.0 | 板状灰陶石器 | - | - | 口沿下部は丸頭、器底は直筒型で下部は丸頭。 | 器底丸頭部分は2cm、直筒部は2.5cm、総高さ4cm。 |

J-1

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|------|--------|------|------|------|--------|-----|------|--|------------------------------|
| 1 | 舊玉 | 手取式灰陶罐 | 10.0 | 6.0 | 12.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 3-1現存、 内焰直筒型。 |
| No | 出土位置 | 種別、器種 | 部位 | 底径 | 高さ | 石材 | 焼成 | 重さ | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
| 2 | 舊玉 | 白石器 | 東口 | 10.0 | 12.0 | 板状灰陶石器 | - | 1500 | 口沿下部は丸頭で、器底は直筒型で下部は丸頭。 | 器底丸頭部分は2cm、直筒部は2.5cm、総高さ4cm。 |

D-2

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|-------|--------|------|-----|------|----|-----|----|--|---------------------------|
| 1 | No. 1 | 手取式灰陶罐 | 10.0 | 6.0 | 12.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 器底丸頭部分は2cm、 直筒部は2.5cm。 |
| 2 | No. 2 | 手取式灰陶罐 | 11.0 | 6.0 | 12.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 器底丸頭部分は2cm、 直筒部は2.5cm。 |

D-21

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|------|--------|------|-----|------|----|-----|----|--|---------------------------|
| 1 | 舊玉 | 手取式灰陶罐 | 10.0 | 6.0 | 12.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 器底丸頭部分は2cm、 直筒部は2.5cm。 |

P-10

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 口径 | 底径 | 高さ | 施土 | 焼成 | 色調 | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|------|--------|------|-----|------|----|-----|----|--|------------------|
| 1 | 舊玉 | 手取式灰陶罐 | 10.0 | 6.0 | 12.0 | 灰土 | 無施土 | 青 | 内焰直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 内焰内側直筒型コロゾ、口沿下部に縦溝を有し且下ハラキズリ。 | 3-1現存、 内焰直筒型。 |

A 区 游携外-

| No | 出土位置 | 種別、器種 | 高さ | 幅 | 厚さ | 石材 | 焼成 | 重さ | 断面、成・形態、文様等の特徴 | 保存状況・備考 |
|----|------|-------|-----|-----|-----|------|----|----|-------------------------------------|--------------------|
| 1 | 表裏 | 白石器 | 3.1 | 2.3 | 0.6 | 板状灰陶 | - | 12 | 表裏共に縦溝を有するより手前で、表は横に走る縦溝、裏は手前で走る縦溝。 | 1-1現存、 小字表記3cm。 |

2 B区

(1) 土坑・ピット

本調査区では5基の土坑と、11基のピットを検出した（P-7は欠番）。各計測値については「Tab. 2 B区土坑・ピット計測表」を参照のこと。

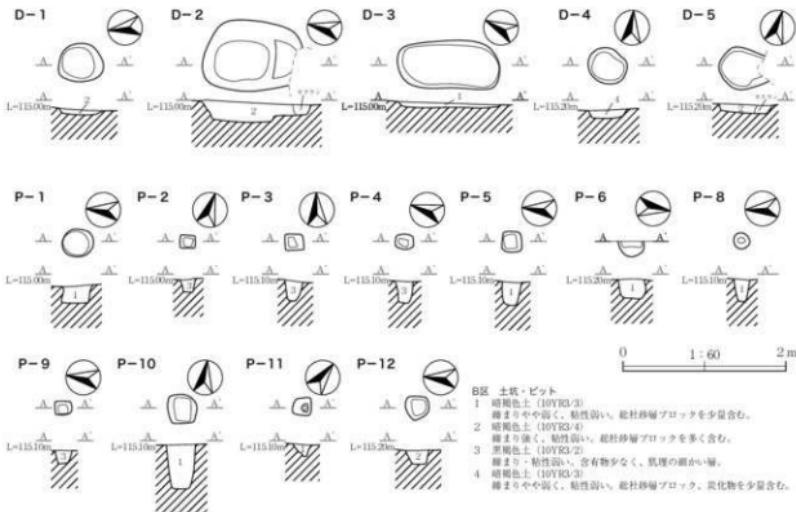


Fig. 21 B区 土坑・ピット

Tab. 2 B区土坑・ピット計測表

| 遺構名 | グリッド | 長軸(m) | 短軸(m) | 深さ(m) | 平面形状 | 重複(古→新) | 出土遺物 | 備考 |
|------|------------------|--------|--------|-------|-------|---------|--------|----|
| D-1 | X 244, Y 238 | 0.54 | 0.43 | 0.04 | 橢円形 | | | |
| D-2 | X 243, Y 238-239 | (1.20) | 0.87 | 0.24 | 頭丸長方形 | | | |
| D-3 | X 242, Y 238 | 1.25 | 0.58 | 0.06 | 長方形 | | | |
| D-4 | X 243, Y 237 | 0.48 | 0.42 | 0.08 | 方形 | | | |
| D-5 | X 242, Y 236 | (0.63) | 0.52 | 0.08 | 方形 | | | |
| P-1 | X 245, Y 239 | 0.38 | 0.33 | 0.26 | 円形 | | 頬2, 石1 | |
| P-2 | X 244, Y 238 | 0.18 | 0.17 | 0.15 | 方形 | | | |
| P-3 | X 242, Y 238 | 0.22 | 0.20 | 0.24 | 方形 | | | |
| P-4 | X 243, Y 238 | 0.22 | 0.18 | 0.26 | 方形 | | | |
| P-5 | X 243, Y 237 | 0.25 | 0.24 | 0.28 | 方形 | | | |
| P-6 | X 242, Y 237 | 0.31 | (0.19) | 0.23 | 長方形 | | | |
| P-7 | | | | | | | | |
| P-8 | X 244, Y 237 | 0.19 | 0.19 | 0.26 | 円形 | | | |
| P-9 | X 244, Y 237 | 0.21 | 0.16 | 0.16 | 方形 | | 瓦1 | |
| P-10 | X 243, Y 236 | 0.36 | 0.35 | 0.53 | 方形 | | 頬5, 石2 | |
| P-11 | X 244, Y 236 | 0.21 | 0.20 | 0.13 | 方形 | | | |
| P-12 | X 243, Y 235 | 0.28 | 0.27 | 0.16 | 方形 | | 頬1 | |

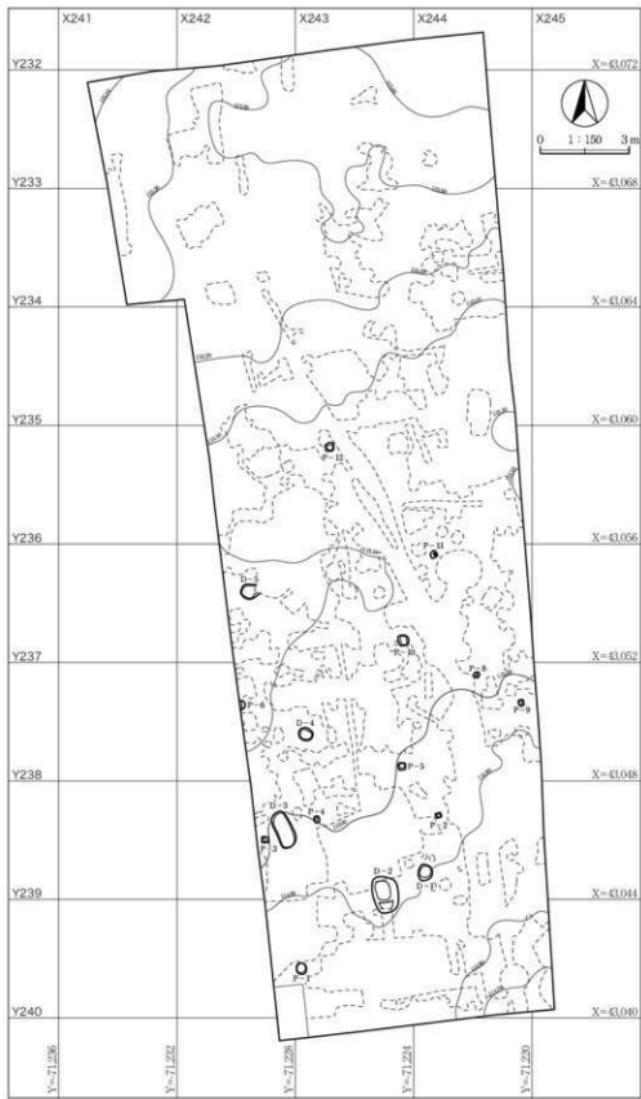


Fig.22 B区 全体図

VI まとめ

今回の発掘調査では堅穴住居跡、建物跡、溝跡（蒼海城の堀）等を検出している。調査の成果で特に注目されるのは、それぞれ違った造りとなっている3棟の建物跡であろう。周辺では建物跡の検出事例が多く、構造的に官衙に関連する遺構群と考えられる。また、区画溝をはじめとする古代の地割が推定できる遺構も多く検出されている。ここでは本遺跡で検出した建物跡を中心として、既往の調査事例をふまえ本遺跡周辺を概観し、まとめとする(Fig.23)。

本遺跡で検出した基壇状遺構は総地業の建物跡で、版塗された総地業を伴う遺構は元總社蒼海遺跡群(99)、(127)・(133)でも確認されており、本遺構で3例目となる。本遺跡での基壇状遺構は總社砂層に由来する黄褐色砂質土とAs-C軽石を含む黒褐色土を中心として互層状に版塗しており、各層は数cm単位にまで細められている。(1)總社砂層に由来する黄褐色砂質土の割合が多い土層、(2)As-C軽石を含む黒褐色土の割合が相対的に多い土層、(3)總社砂層に由来する黄褐色砂質土、As-C軽石を含む黒褐色土が明瞭に互層状に見られる土層、(4)As-C軽石を含む黒褐色土を主体とする土層、4つに大別でき全体的に非常に固く縮まっている。柱穴や礎石等は確認されず、削平による影響と考えられる。一方、版塗土中には人頭大の礫を検出しているが明確な掘り込み等は見られず、盛土の補強として入れられたと思われる。後世のカクラン等により不明確ではあるが、残存状況から推定するに10°西傾している。蒼海(99)では9°西傾することが確認されており、蒼海(127)・(133)ではほぼ正方位となるようである。¹²⁾構造的に一連の遺構群といえる。

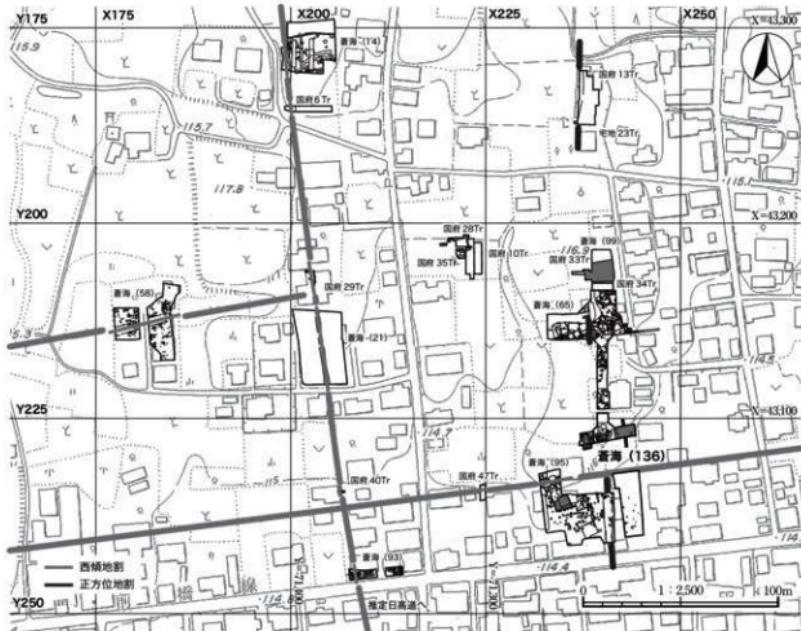


Fig.23 元總社蒼海遺跡群(136)周辺の地割と関連遺構

本遺跡の西側で検出したB-1号建物跡は布地業による建物跡で、桁行5間（柱心々間は約2.3m）、梁行は推定であるが3間を測る。同様の布地業による建物跡は国府28・35Tr、蒼海（99）・国府33Trで確認されている。その中で、国府28・35Trで確認された1号建物跡は東西12.9m・南北7.8、「枠のように巡った形」の平面形態をしている。本遺跡のB-1号建物跡は布地業の範囲として東西12.6m・南北7.8mを測り、西側（B-1-1）がコの字状に枠のように巡った形の平面形態であることが確認され、同様の規模・構造をもつ建物と判明した。相違点としては本遺構では桁行間の柱筋に溝状の掘り込み（B-1-2～5）を持つこと、東側（B-1-6）は「枠」にはならず北側で浅く収束することが挙げられるが、礎石や根石、掘り形は検出できず、柱穴は認められなかった等、類似する特徴も多い。また、蒼海（99）・国府33Trで確認された布地業建物跡も同様の構造と推定される。傾きは本遺構が11°、国府28・35Trで13°、蒼海（99）・国府33Trで11°⁽¹⁾とはほぼ同様の角度で西傾している。

B-2号建物跡は調査区東側、基壇状遺構を基盤層である総社砂層まで掘り下げた位置で検出した。桁行3間・梁行2間・柱間寸法で桁行総長6.0m、梁行総長4.0mを測り、13°西傾する掘立柱建物跡である。規模は東・南側が調査区外となるため現状での計測値である。上層の基壇状遺構に伴う遺構となる可能性もあるが、土層断面の観察からは同一遺構とは見なせず、角度も若干異なることから基壇状遺構に先行する、独立した建物跡であったと考えられる。本遺跡周辺では蒼海（95）で重複する2棟の掘立柱建物跡が検出されている。1号建物跡は19°西傾し、桁行3間・梁行2間で柱間寸法から桁行総長5.0m、梁行総長5.0mを測る。2号建物跡は13°西傾し、桁行4間・梁行3間・柱間寸法から桁行総長7.7m、梁行総長4.8mとなり、1号建物跡が先行する。いずれも古代に属し、建物の角度や規模から本遺構と同時期にあたるものと思われる。

本遺跡で検出した3棟の建物跡について、同様の構造をもつ遺構が周辺で検出されていることを確認したが、次に時期について検討する。3棟の前後関係については、B-2号建物跡が基壇状遺構に先行することが分かっているのみで詳細は不明とせざるを得ないが、基壇状遺構とB-1号建物跡の間は約4mしか離れておらず、併存した可能性は低いように思われる。所属時期については、本遺跡では堅穴住居跡と重複しており、重複関係から3棟とも7世紀後半以降、10世紀前半までの間に存続していた遺構であることが判明した。さらなる時期の絞り込みについては現状では困難であるが、周辺の事例でも同様に7世紀後半の遺構を切り、10世紀前後の遺構に切られる様相はほぼ一致していることから、8・9世紀代に機能していたものと考えておくことが現時点では妥当であると思われる。これは当該期の他の遺構（堅穴住居跡等）が見られず、建物跡のみが検出されていることからも推察され、本遺跡周辺では8・9世紀代には集落は展開せず、建物群が占地していた様子が窺われる。

以上、検出した3棟の建物跡を中心に概観してきたが、本遺跡周辺では上述のように区画溝をはじめとする古代の地割が推定できる遺構も多く、元総社周辺での古代の地割については30°前後の西傾から、10°前後の西傾、そして正方位へと大きく3段階の地割の存在が指摘されている⁽²⁾。そのなかで3棟の建物跡は10°前後西傾しており、地割の段階の一定点を示しているものである。

今後の課題としては遺構の性格付けについてであり、構造等から官衙に関連する遺構であることは確実であるが、さらに踏み込んだ検討が必要である。

註

- (1) 「版築」とは両板で土を留め突き固める工法で、本遺構の土層は板の痕跡がなく緻密には「版築」とは言えないが、慣例的に呼称しておく。
- (2) 2019年度の発掘調査で、前橋市教育委員会、阿久澤智和氏より現地で御教示頂いた。なお、正式な報告ではなく現段階での見解である。
- (3) V章で記載しているが、基壇状遺構は前平を受けており残存状況からの角度の推定である。
- (4) 前橋市教育委員会 2019



元祉社蒼海道路群（136）全景（上が西）



A区 全景（上が北）



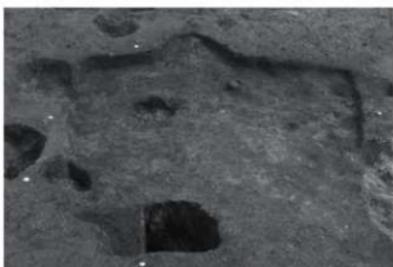
A区 H-1号住居跡全景（西から）



A区 H-2号住居跡全景（南から）



A区 H-2号住居跡カマド全景（西から）



A区 H-3号住居跡全景（西から）



A区 H-4・5号住居跡全景（西から）



A区 H-5号住居跡カマド全景（西から）



A区 H-6・7・8号住居跡全景（南から）



A区 基壇状遺構土層断面（南西から）



A区 基壇状遺構全景（北西から）



A区 B-1号建物跡全景（北西から）



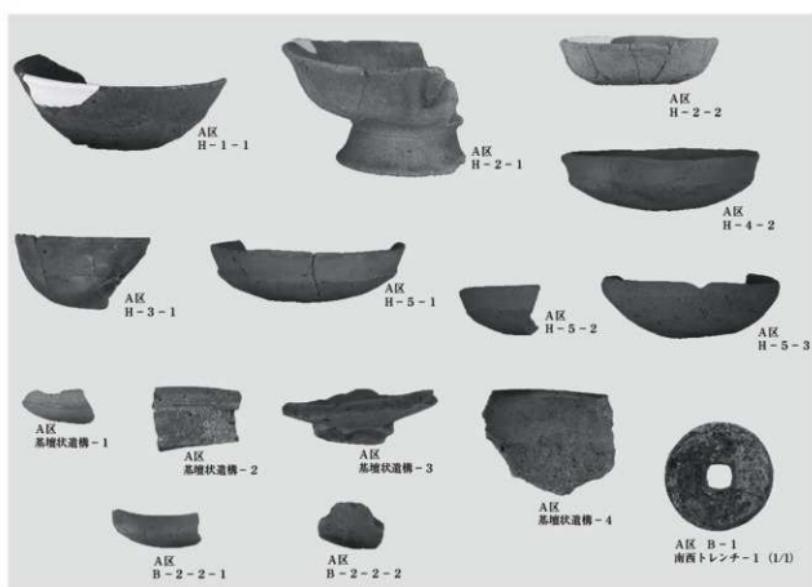
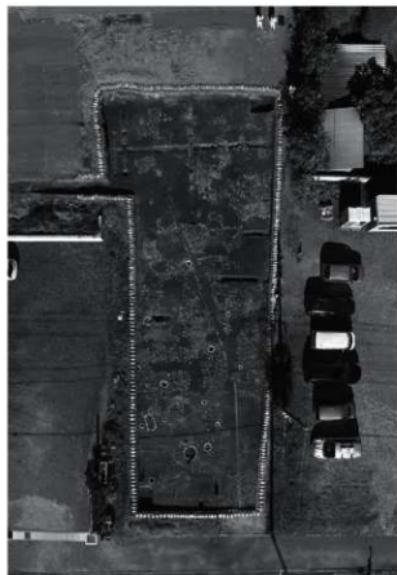
A区 B-1号建物跡土層断面（西から）

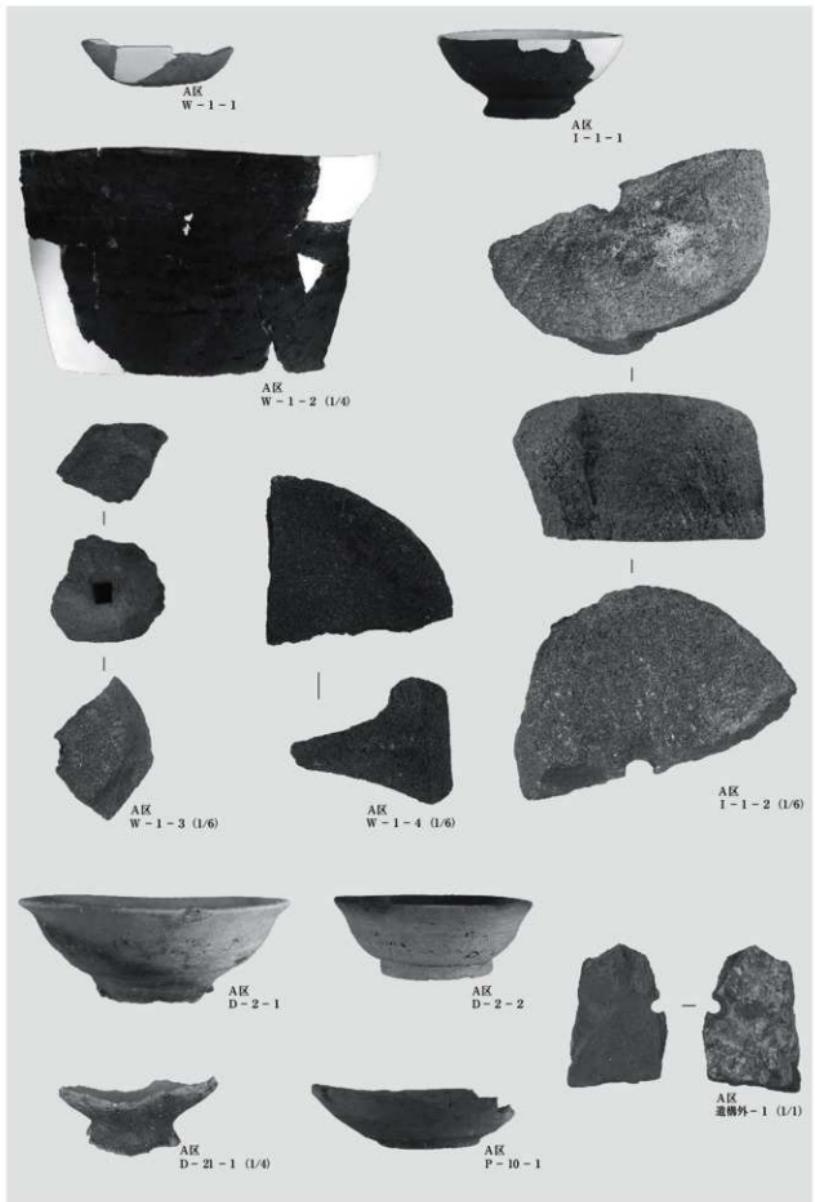


A区 B-2号建物跡全景（南東から）



A区 W-1号溝跡全景（西から）





報告書抄録

| | |
|---------|--------------------------------------|
| フリガナ | モトソウジャオウミイセキグン (136) |
| 書名 | 元総社蒼海遺跡群 (136) |
| 副書名 | 前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 巻次 | - |
| シリーズ名 | - |
| シリーズ番号 | - |
| 編著者名 | 山田誠司 |
| 編集機関 | 技研コンサル株式会社 |
| 編集機関所在地 | 〒371-0031 群馬県前橋市下小出町1丁目15番地3 |
| 発行機関 | 前橋市教育委員会 |
| 発行機関所在地 | 〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4 |
| 発行年月日 | 2020年3月27日 |

| フリガナ | フリガナ | コード | 位置 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|-------------------------------------|-------------------------------------|--|--------|----------------------------------|------------------------|--|
| 所収遺跡名 | 所在地 | 市町村 | 遺跡番号 | 北緯 | 東経 | |
| モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (136) | モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群 (136) | 前橋市元総社町 2122-2, 2124, 2126-1, 2126-2 | 102021 | 1 A245 36°02'11" 139°2'22" | 20191015 / 20191129 | 696m ² 前橋都市計画事業 元総社蒼海土地区画 整理事業 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 | |
|-------------------|-----------------|-------------------------|--------------------------------------|------------------------------------|--------------------------|---|
| 元総社蒼海遺跡群 (136) | 集落 官衙 城館跡 | 古墳時代 奈良・平安時代 中・近世 | 住居跡 建物跡 溝跡 焼土跡 土坑 ピット | 8軒 3棟 1条 1基 26基 22基 | 須恵器 土師器 陶磁器 石製品 | <ul style="list-style-type: none"> 8~9世紀代と考えられる 建物跡（基壇状1、布地業1、 掘立1）を検出。 蒼海城に間連する堀跡。 |

元総社蒼海遺跡群 (136)

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2020年3月10日 印刷
2020年3月27日 発行

発行 前橋市教育委員会文化財保護課

〒371-0853 群馬県前橋市総社町3丁目11番地4
TEL 027-280-6511

編集
印刷 技研コンサル株式会社
朝日印刷工業株式会社

